

小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

第1 点検及び評価の対象及び実施日

対 象 令和2年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況

実施日 令和3年7月13日

第2 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和2年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和2年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第3 点検及び評価の結果

点検評価シート（令和2年度実績）に記載

令和2年度の重点施策

基本目標1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

- ☞ 人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。
- ☞ 理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策1）			担当課 学校教育課																																							
内 容	「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりに役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修を効率的・効果的に実施します。																																										
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校において、教員が学級や授業づくりに活用できる知識や経験を学び合うため、校内授業研修等を実施するとともに、OJTの充実に努めました。 ・教育委員会において、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技研修や座学研修を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できないものが多くありました。 ・児童生徒1人1台端末の整備に合わせて、ICT機器の操作・活用研修を小中学校の全教職員を対象に実施しました。 <p>◆主な研修の種類</p> <table border="1" data-bbox="486 1339 1377 1832"> <thead> <tr> <th rowspan="2">研修項目</th> <th colspan="3">参加延べ人数</th> </tr> <tr> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現職教育研修</td> <td>952人</td> <td>929人</td> <td>902人</td> </tr> <tr> <td>新任・少経験・経験教員研修</td> <td>322人</td> <td>387人</td> <td>446人</td> </tr> <tr> <td>校長・教頭・教務主任・校務主任等研修</td> <td>581人</td> <td>578人</td> <td>575人</td> </tr> <tr> <td>専門研修（教育課題への対応）</td> <td>0人</td> <td>582人</td> <td>587人</td> </tr> <tr> <td>専門研修（教職専門性の向上）</td> <td>83人</td> <td>915人</td> <td>751人</td> </tr> <tr> <td>特別研修</td> <td>92人</td> <td>402人</td> <td>464人</td> </tr> <tr> <td>教育講演会</td> <td>0人</td> <td>689人</td> <td>715人</td> </tr> <tr> <td>中堅教員国内派遣研修</td> <td>0人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				研修項目	参加延べ人数			R2年度	R元年度	H30年度	現職教育研修	952人	929人	902人	新任・少経験・経験教員研修	322人	387人	446人	校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	581人	578人	575人	専門研修（教育課題への対応）	0人	582人	587人	専門研修（教職専門性の向上）	83人	915人	751人	特別研修	92人	402人	464人	教育講演会	0人	689人	715人	中堅教員国内派遣研修	0人	3人	3人
研修項目	参加延べ人数																																										
	R2年度	R元年度	H30年度																																								
現職教育研修	952人	929人	902人																																								
新任・少経験・経験教員研修	322人	387人	446人																																								
校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	581人	578人	575人																																								
専門研修（教育課題への対応）	0人	582人	587人																																								
専門研修（教職専門性の向上）	83人	915人	751人																																								
特別研修	92人	402人	464人																																								
教育講演会	0人	689人	715人																																								
中堅教員国内派遣研修	0人	3人	3人																																								
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育研修や、経験年数の浅い教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。 ・教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。 																																										

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をしながら、研修会を開催できる方法を検討していく必要があります。
<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向けた評価や授業づくりについての研修、プログラミング教育を含め教育のICT化に向けた研修などを充実させます。 ・教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。 ・「学び合う学び」を進める教員の力量向上のための研修を引き続き企画します。 ・経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法等、校内研修を充実し、より具体的な事例を挙げた研修を企画します。
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で休校、そして再開後の三密回避によって、学校教育は大きな影響を受けました。これまでの当たり前が当たり前でなくなった1年でしたが、学び合う学びの理念にもとづき、各学校では質の高い学びを実現するための努力や工夫が見られました。こうした困難な状況を乗り越える上で、専門職としての教師の資質・能力や組織としての学校の教育力の重要性が改めて浮き彫りになりました。これらを発展させるためには教員研修が不可欠ですが、その実施もコロナの影響を大いに受け、特に集合研修の実施が困難でした。多忙化解消の観点からも従来の研修のあり方を見直す必要があり、学校を基盤とする教員研修や授業研究をはじめとするOJTの充実や、教員研修におけるICTの活用などにより、実践課題の解決に資する職務に関連づけた合理的な研修機会の充実が求められています。 ・オンラインでの研修実施など社会情勢に合わせ、極力、先生方の多忙感を増大させないような工夫を希望します。 ・コロナ感染予防対策を行いながらの研修、実際に会を催せないこの一年であったと推察いたします。必要に迫られたICT機器操作研修、今後も活用方法等の研修継続を期待します。経験年数の浅い教員の力量向上のためには、やはりOJT現場における育成が有効です。教わる立場、教える立場両方にプラスになる学び合いだと考えます。そのためには、教員の時間的・精神的余裕が必要。学校全体の職員関係が良好であることが大切。小経験者が気軽に相談できる雰囲気、他の学級にも目配り・心配りができる同僚関係。そのような関係が築ける学校・教育委員会とのつながりであってほしいと思います。 ・今後はZoom等のオンライン研修も実施願います。

点検評価シート（令和2年度実績）

【全体に対する意見】

- ・令和2年度は緊急事態宣言の発出により全国一斉の休校措置が取られ、教育カリキュラムや入試制度などに関わる議論が紛糾した年でした。そうした中で、学校現場は様々な臨時的対応で急場をしのいできたようにも感じています。昨年度の学校教育については可能な範囲で目標を達成しようとする姿勢こそ大切ですが、多くを望むことは困難だったと思います。子どもたちの受けたリスクを検証し、学習の遅れ、学校諸行事の中止や延期、部活動の中止、休校によるストレス、進度の早い授業についていけなかった子ども、これらがきっかけで不登校になった子どもへの対応を考えていくことが必要です。学校教育・社会教育それぞれの現場で、顕在的な問題だけでなく潜在的な問題にも目を配りながら対応していくことが重要です。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	コミュニティ・スクールの推進（施策2）	担当課 学校教育課
内 容	各小中学校がより一層特色ある教育活動に取り組み、小牧市の特性を活かしたコミュニティ・スクールの推進していくため、他自治体の先進・優良事例を紹介するコミュニティ・スクール研修会を開催し、各小中学校の活動を支援します。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末に市内 11 小学校区で設立された地域協議会の目的や組織、活動内容を取りまとめたコミュニティ・スクール推進ガイドライン（vol.3）を、各小中学校へ配付し周知しました。 令和2年度は、その内容を踏まえて、学校運営協議会と地域協議会の今後の連携を意識した検討を進める予定をしていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の開催やコミュニティ・スクールの推進するための検討を進めることができませんでした。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によりコミュニティ・スクールの推進することが困難な状況であり、令和3年度も様子見の1年になることが予想されます。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の学校運営協議会において、趣旨や目的を説明するとともに、「目指す子どもの姿」や「目指す学校の姿」を話し合い、目標やビジョンの共有を一層図っていきます。 各学校の担当者を対象としたコミュニティ・スクールに関する研修会を開催するなど、各学校での活動を支援していきます。 各学校がコミュニティ・スクールの活動を円滑に進められるように、学校と地域が活動しやすい予算のあり方について引き続き検討を進めます。 	
評 価 委 員 等 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> 対面での会合やイベントの実施が困難でありつつも、コロナによって地域と学校の結びつきがより一層大切になっています。学校からの情報発信を充実し、保護者・地域の声を吸い上げ、「社会に開かれた教育課程」に向け、ウィズコロナ、ポストコロナにおける、地域と学校の繋がりを期待します。 学校運営協議会が主体となった活動が、より活発になることを期待します。 学校のマンパワーだけではとても困難な状況の時こそ、地域の力が必要です。そのためには、説明をする準備や会を開催する時間と労力が学校側に必要となります。課題が多く多忙な今の学校現場では、そのジレンマに苦しんでみえるのでは？今は無理をして疲弊することなく、柔らかなつながりを大切にして今後につなげていってほしいと考えます。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none">・「地域コミュニティの拠点としての学校のあり方」というテーマで話し合った記憶がよみがえって来ました。コミュニティ・スクールが導入されることで変わること、改善が期待されること、さらにはそれによって起きる地域や学校の果たすべき役割など、想定される様々な事柄を児童生徒目線で考えることが大切です。また、今まで必要に応じて設立されてきた地域の多様な組織と、それによって育まれてきた子どもたちとの関係性を今一度考えてみることも大切な視点ではないかと思います。・コロナ禍の中で、コミュニティ・スクール活動が必要となります。今後とも前向きに推進して行ってほしいものです。小規模で始めていただき、様子見が少しでも減じると良いです。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	小中学校における英語教育の推進（施策3）	担当課 学校教育課																																
内 容	学習指導要領の改訂に合わせ、外国人英語指導助手（ALT）の増員などを行い、小中学校の英語教育の充実を図ります。また、市民団体と協働して中学生英語スピーチコンテストを開催します。																																	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から小学校で新学習指導要領が完全実施されたことに伴い、ALTを小学校に2人増員するとともに、英語の専科教員（県費）2人が加配されました。 児童にとってネイティブ・スピーカーの英語に触れる時間が増え、コミュニケーションの素地の醸成につながりました。 新学習指導要領による英語活動及び英語科の授業時間の増加に対し、令和2年度より、小学3年生から小学6年生について、木曜日に6時間目を加えるなど、各学校で時間数増加への対応をしました。 <p>◆英語の時間数（年間）</p> <table border="1" data-bbox="491 958 1254 1205"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学6年生</td> <td>70時間</td> <td>50時間</td> <td>50時間</td> </tr> <tr> <td>小学5年生</td> <td>70時間</td> <td>50時間</td> <td>50時間</td> </tr> <tr> <td>小学4年生</td> <td>35時間</td> <td>15時間</td> <td>15時間</td> </tr> <tr> <td>小学3年生</td> <td>35時間</td> <td>15時間</td> <td>15時間</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆ALTの配置状況</p> <table border="1" data-bbox="491 1301 1254 1451"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>9人</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>		項目	R2年度	R元年度	H30年度	小学6年生	70時間	50時間	50時間	小学5年生	70時間	50時間	50時間	小学4年生	35時間	15時間	15時間	小学3年生	35時間	15時間	15時間	項目	R2年度	R元年度	H30年度	中学校	3人	3人	3人	小学校	9人	7人	7人
項目	R2年度	R元年度	H30年度																															
小学6年生	70時間	50時間	50時間																															
小学5年生	70時間	50時間	50時間																															
小学4年生	35時間	15時間	15時間																															
小学3年生	35時間	15時間	15時間																															
項目	R2年度	R元年度	H30年度																															
中学校	3人	3人	3人																															
小学校	9人	7人	7人																															
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度からの小学校における英語の教科化・必須化を受けて引き続き小学校教員の英語力と授業力の向上を図っていく必要があります。 授業の中でのALTとの関わり合いなどを含め、ALTのより有効な活用方法について、検討する必要があります。 英語授業においても、より効果的なICTの活用方法について、検討する必要があります。 																																	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の改訂により、令和2年度から実施された英語の教科化・必須化に対応するため、教員研修を行うなどの取り組みを継続的に進めていきます。 英語教育推進委員会を中心に、ALTやICTを活用した英語教育について研究し、令和3年度中に令和4年度以降のALTの配置計画を含め、英語教育の方針をとりまとめていきます。 																																	

点検評価シート（令和2年度実績）

<p>評価委員 の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none">・小学校中学年「外国語活動」、小学校高学年「外国語」、中学校「外国語」という、英語を学ぶことの良さを実感し自己効力感が高まるよう、児童・生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成とその評価が求められます。・英会話教育ではなく英語教育であることの意義を踏まえ、外国文化の理解など柔軟な学習計画を推奨していくべきでしょう。・木曜日の6時間授業、英語教育の推進を図るための時間として必要かもしれませんが、教職員研修の時間を確保していた時間帯がそのために削られてしまったということは現場にとって厳しいことだと思います。あれもこれもと求められる現場。切るものが無く、盛っていくばかりでは、教職員の負担が増すばかり。それが子どもたちにとって良いことなのかどうか・・・考えさせられます。・ネイティブ・スピーカーのALTは必須でしょうが、子どもたちが何を伝えたいのかを明快にしていき、ALTにその手伝いをしてもらっていく。もっと子ども主体であるといいです。・小5の子どもの英語の授業で、英語を得意とする先生は最初から最後まで全部英語で授業をしてくれて、とても楽しかったと言っていました。小学校の英語の授業でも、学級担任ではなく英語を専門とした先生に授業をしてもらえたらいいと思います。
----------------------	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	情報活用能力・情報モラルの育成（施策3）	担当課																				
		学校教育ICT推進室																				
内 容	「小牧市学校教育ICT推進計画」に基づき、ICT教育のモデル校（2小学校・2中学校）において、ICT機器を活用した「分かりやすく、主体的で協働的な学びの授業」の実践検証を行います。また、全小中学校にICT支援員を配置します。																					
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・国のGIGAスクール構想の前倒しを踏まえ、モデル校（令和3年1月から「パイオニア校」に呼称変更）において、タブレットPCを活用し、1人1台環境における授業実践に取り組みました。また、令和2年度を「授業での効果的な活用を目指す段階」と位置づけ、タブレットPC等を活用した実践事例集を作成しました。 ・パイオニア校において、小学4年生から中学3年生までを対象に、児童生徒がタブレットPCを自宅に持ち帰ってインターネットに接続し、学校から配信された課題に取り組み、自宅から提出することにより、タブレットPCを介したやり取りの検証を行いました。 ・各学校を訪問してICT機器の操作に対する助言や活用事例の紹介等を行うICT支援員について、令和2年10月から段階的に訪問回数を増やしました。 <p>◆パイオニア校の実践事例数（年間）</p> <table border="1" data-bbox="488 1292 1414 1393"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>味岡小</th> <th>大城小</th> <th>味岡中</th> <th>光ヶ丘中</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事例数</td> <td>31事例</td> <td>17事例</td> <td>38事例</td> <td>11事例</td> </tr> </tbody> </table> <p>◆パイオニア校アンケート結果</p> <table border="1" data-bbox="488 1487 1406 1733"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R元年10月</th> <th>R3年2月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合</td> <td>78.9%</td> <td>81.1%</td> </tr> <tr> <td>授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合</td> <td>97.8%</td> <td>99.0%</td> </tr> </tbody> </table>			項目	味岡小	大城小	味岡中	光ヶ丘中	事例数	31事例	17事例	38事例	11事例	項目	R元年10月	R3年2月	タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	78.9%	81.1%	授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%	99.0%
項目	味岡小	大城小	味岡中	光ヶ丘中																		
事例数	31事例	17事例	38事例	11事例																		
項目	R元年10月	R3年2月																				
タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	78.9%	81.1%																				
授業の中でICT機器を活用したいと感じている教員の割合	97.8%	99.0%																				
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人ひとりのICT活用指導力の向上を図るため、ICT機器の操作方法や授業におけるソフトウェアの活用方法などを学ぶ機会を充実する必要があります。 ・計画期間が終了する「小牧市学校教育ICT推進計画」を見直す必要があります。 																					

点検評価シート（令和2年度実績）

<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT支援員による校内研修を実施するほか、各学校において児童生徒がタブレットPCの活用ルール作成に主体的に参加することにより、児童生徒及び教員の情報モラル育成を図ります。 ・各学校の情報教育担当が校内研修やICTを活用した授業実践を広めるリーダー役となる体制づくりを行います。 ・臨時休校時に備えて、普段からオンライン授業を実施し、またICTを活用して児童生徒の悩み相談に対応し、臨時休校時も児童生徒と学校とのつながりを維持できる体制を見据えた検証を行います。 ・「小牧市学校教育ICT推進計画」（第二次計画）を策定します。
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台のタブレットPCにより、ICTの活用場面が飛躍的に増えています。学び合う学びの充実にICTが欠かせないものになりつつあります。それとともに、児童生徒の情報モラルや情報活用能力を体系的に育成することが求められます。 ・家庭の情報格差に配慮し、負担感を生じさせないような展開を期待します。 ・パイオニア校のアンケート結果から、児童生徒も教員もICT機器の活用について前向きであることが分かります。情報モラル育成のため、児童生徒が主体的に参加することも大変良いことだと思います。 ・タブレットPCを活用しての授業は、やはり分かりやすいようで、子どももクラスメイトの考えが見られて楽しいようです。オンライン学習もやってみたいと楽しみにしています。 ・授業の中でICT機器を活用したいと思う児童生徒がもっと増えていくことを望みます。アフターコロナではICTがノーマルとなっていくため、鉛筆で文字を書いたり、紙の教科書を見るのと、同レベルでタブレットPCを活用できるように進めていただきたいです。 ・タブレットの正しい使い方（ブルーライトの影響や有害サイトについて）も学ぶ機会があることを願います。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	必要に応じた支援員、介助員の配置（施策4）	担当課 学校教育課																
内 容	特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細やかに支援するため、学校生活サポーターを増員し、教員や特別支援教育相談員などとの連携により支援体制を充実します。																	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を補助する支援員として「学校生活サポーター」を増員し、支援の充実を図りました。 学校生活サポーターは、児童生徒が学習課題を行う際の手助けや、他の学級との交流及び共同学習のための教室移動の付き添いなど、担任と相談しながら個々の児童生徒の状態に応じた支援を行いました。 学校生活サポーターへの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の方法などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。 <table border="1" data-bbox="491 1003 1254 1249"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援教育介助員</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>学校生活サポーター</td> <td>12人</td> <td>9人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td> <td>252人</td> <td>227人</td> <td>225人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※特別支援教育介助員を減員した理由は、介助が必要な児童が小学校卒業を機に特別支援学校へ進学したためです。</p>		項目	R2年度	R元年度	H30年度	特別支援教育介助員	0人	0人	1人	学校生活サポーター	12人	9人	6人	特別支援学級に在籍する児童生徒数	252人	227人	225人
項目	R2年度	R元年度	H30年度															
特別支援教育介助員	0人	0人	1人															
学校生活サポーター	12人	9人	6人															
特別支援学級に在籍する児童生徒数	252人	227人	225人															
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒が、地域の学校への就学を希望することが増えてきています。 外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。 																	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、令和3年度は学校生活サポーターを3名増員し、15名体制とします。 今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。 																	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育介助員は少なくとも1名常置し、サポートの厚みを増すことが必要だと考えます。 特別支援学級に在籍する児童生徒には、個々の障がいに応じたかわりが大切であると同時に、集団での生活に適応できる力を育成することも大切です。小集団での生活におけるルールを覚える 																	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>場としての学級では、指導する担任と支援員・サポーターとの共通理解が欠かせません。研修の充実を期待します。</p> <ul style="list-style-type: none">・大変な仕事ですが、「特別支援」という語が消えて、支援するのが当たり前になるような考えにまで至るといいです。・支援の必要な児童が、安心安全に学校生活を送れるよう、ぜひ増員していただきたいと思います。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	日本語初期教室の実施（施策5）		担当課 学校教育課																														
内 容	市内の小中学校に転入する日本語が分からない児童生徒に対し、日本語の日常会話や日本の学校のきまり、習慣や基礎的学習などの定着を図り、安心して日本の学校に適応するための指導を実施します。また、市民団体と協働して日本語指導が必要な子どもの学習支援に取り組めます。																																
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度から、語学相談員等のマネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和2年度は、ポルトガル語6名、スペイン語5名、タガログ語6名、中国語3名の計20名の語学相談員（日本語初期教室を含む）を配置しました。 日本語指導員を日本語初期教室2名、巡回2名の計4名配置し、日本語の指導を行いました。 来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約3か月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導するとともに、母語の個別指導も実施しました。 <table border="1" data-bbox="491 1099 1362 1299"> <thead> <tr> <th rowspan="2">場所</th> <th colspan="3">入室児童生徒数</th> </tr> <tr> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>にじっこ教室（大城小学校内）</td> <td>11人</td> <td>14人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>分室（適応指導教室カルミア1階）</td> <td>9人</td> <td>40人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R2年度は新型コロナウイルスの影響で入室者が減少しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人児童生徒教育連絡協議会による外国人児童生徒の進路説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止としましたが、説明会資料を外国語に翻訳して配付しました。 多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合の対応策の1つとして、学習チューターの活動場所に日本語初期教室を加え、学習チューターの支援が得られるようにしました。 					場所	入室児童生徒数			R2年度	R元年度	H30年度	にじっこ教室（大城小学校内）	11人	14人	22人	分室（適応指導教室カルミア1階）	9人	40人	27人													
場所	入室児童生徒数																																
	R2年度	R元年度	H30年度																														
にじっこ教室（大城小学校内）	11人	14人	22人																														
分室（適応指導教室カルミア1階）	9人	40人	27人																														
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 日本語が不自由な児童生徒が増加傾向にあります。また、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語の児童生徒が年々増えており、多言語化が進んでいます。 <table border="1" data-bbox="491 1825 1385 2024"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>ポルトガル語</th> <th>スペイン語</th> <th>タガログ語</th> <th>中国語</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2年度</td> <td>347人</td> <td>215人</td> <td>295人</td> <td>55人</td> <td>73人</td> <td>985人</td> </tr> <tr> <td>R元年度</td> <td>355人</td> <td>216人</td> <td>292人</td> <td>52人</td> <td>55人</td> <td>970人</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>325人</td> <td>207人</td> <td>313人</td> <td>54人</td> <td>65人</td> <td>964人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他（13ヶ国語）：英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、</p>					項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計	R2年度	347人	215人	295人	55人	73人	985人	R元年度	355人	216人	292人	52人	55人	970人	H30年度	325人	207人	313人	54人	65人	964人
項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計																											
R2年度	347人	215人	295人	55人	73人	985人																											
R元年度	355人	216人	292人	52人	55人	970人																											
H30年度	325人	207人	313人	54人	65人	964人																											

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>インドネシア語、ベトナム語等</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な増加はありませんでしたが、令和元年度は多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室（分室）に入室を希望し、教室の定員を超過したため、地域の会館の一室を借用して、授業を実施しました。今後も入室希望者の増加に対応する必要があります。 また、令和元年度の入出国管理法の改正に伴い、今後、日本語指導が必要な児童生徒が増えていく可能性があります。
<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多言語化に対応するため、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。 出入国管理法の改正の影響を注視し、多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合に対応できるよう、新たな施設の確保を検討します。 語学相談員に日本語能力検定の受験を勧めるなど、能力・意欲の向上に努めます。
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 需要の変動に備えた支援の体制が重要です。 コロナウイルスによる学習離れが生じないような工夫を期待します。コロナにより家庭環境が不安定になっている事例も耳にします。総合的なサポートが必要でしょう。 コロナ感染の影響で、入室児童生徒数が減少していますが、今後のことを考慮し、体制が縮小されないことを願います。 どこの国にもあるシステム、日本の子どもも外国に行った時、こんな教室に入れられます。しかし、一般のその国の子どもたちとの接点がないことが心配されます。特別な支援はある程度は必要ですが、少し語学ができるようになったら、枠を広げて普通クラスとの交流ができる方法を模索していただけるとありがたいです。

基本目標2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

- ④ 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。
- ④ 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	小中学生にすすめるブックリストの活用（施策8）						担当課 図書館																												
内 容	児童生徒が読書記録を蓄積できる「読書ノート」を作成・配布し、子どもの読書活動の推進を図ります。令和2年度は、小学1年生、3年生、5年生及び全中学生に配布します。																																		
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の「読書マスター認定証」配布状況やアンケートでの意見を基に、本の紹介文を伝わりやすい表現にするなど改善し、小学生向けの「読書ノート」を小学1年生、3年生、5年生に、中学生向けの「読書ノート」を全中学生に配布しました。 ・「読書マスター認定証」を希望者に発行しました。（令和3年3月） <table border="1" data-bbox="448 1016 1414 1375"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">低学年</th> <th colspan="2">中学年</th> <th colspan="2">高学年</th> </tr> <tr> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>R2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定証の配布枚数</td> <td>1,011枚</td> <td>694枚</td> <td>314枚</td> <td>188枚</td> <td>66枚</td> <td>101枚</td> </tr> <tr> <td>児童数に対する配布枚数の割合</td> <td>36.8%</td> <td>26.3%</td> <td>11.0%</td> <td>6.7%</td> <td>2.3%</td> <td>3.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>（R2年度 合計 983 枚）</p> <p>※読書マスター認定証発行基準 R元年度：全学年 10冊以上ブックリストの本が読めた児童へ発行 R2年度：高学年のみ 10冊以上から 5冊以上へ変更</p>								項目	低学年		中学年		高学年		R元年度	R2年度	R元年度	R2年度	R元年度	R2年度	認定証の配布枚数	1,011枚	694枚	314枚	188枚	66枚	101枚	児童数に対する配布枚数の割合	36.8%	26.3%	11.0%	6.7%	2.3%	3.5%
項目	低学年		中学年		高学年																														
	R元年度	R2年度	R元年度	R2年度	R元年度	R2年度																													
認定証の配布枚数	1,011枚	694枚	314枚	188枚	66枚	101枚																													
児童数に対する配布枚数の割合	36.8%	26.3%	11.0%	6.7%	2.3%	3.5%																													
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では授業にタブレットPCを導入するなど、ICT化が進められているため、紙媒体の「読書ノート」からICTを活用した方法への転換を検討する必要があります。 																																		
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は小中学校共に新1年生に「読書ノート」を配布し、その他の学年は希望者に配布します。 ・図書館のホームページから「読書ノート」をダウンロードし、児童生徒が自由に利用できるようにします。 ・中央図書館の開館に合わせて構築した図書館システムに、読書記録をつける機能を設けたため、紙媒体の「読書ノート」の代替となる、この機能について学校を通して児童生徒に周知します。 																																		

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックリストの利用促進のため、図書館システムの資料検索の画面で、ブックリストの本を紹介し、貸し出し状況が把握できるようにします。
<p>評 価 委 員 の 意 見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年に上昇が見られますが低学年で減っています。コロナの影響もあるかもしれません。高学年や中学生の読書の習慣化をはかるために、授業や朝の会と連動した活動が求められます。 ・ICT化する流れの中で、個人の記録を他者にシェアし、読書体験をより簡単に共有できるような工夫を期待します。 ・タブレット導入などICT化が進められる中、読書ノートもその方向で進むのは、やむを得ないことだと思います。全員配布から希望者配布になった場合、全体への浸透や読書に消極的な児童生徒への働きかけが弱まらないような取り組みを期待します。 ・読書マスター認定証の発行が令和2年度に減じているのは残念です。 ・子どもが以前に「読書マスター認定証」をもらい、とても喜んでいました。読書記録がつけられるのは、とてもよいと思います。

点検評価シート（令和２年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導 （施策１０）	担当課 学校給食課
内 容	望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理等、食に対する理解を深めます。	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭６名、栄養職員１名により、市内小学校の３学年及び中学校の１学年の全クラスを目標に市内各校を巡回し、家庭科の時間等を活用して野菜の摂取量などの栄養バランスや小牧の特産物などの食育指導を行いました。 ・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取り組みを行いました。 （センター毎の対応で延べ５４回実施） ・６月、１１月、１月のそれぞれ１週間を「愛知を食べる学校給食週間」と位置付けて、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供し、校内放送や給食だよりを通じて特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。 ・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭や栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員が食に関する指導で活用できる媒体やポスター等の作成・配布に努めます。 ・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期や供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。 	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭・栄養職員が、指導のための時間をとることが難しいという課題の解決が求められます。児童が栄養教諭と関わることができるよう、ＴＶ会議システムなどＩＣＴの活用も考えられます。 ・近年、関心が高い“食の安全”についても学べるような指導の在り方を期待します。 ・給食の時間は子どもたちにとって楽しみなひと時。コロナ禍の今は、黙食となり会食の楽しさを味わえない面があります。その分、学校放送に耳を傾けられます。放送やテレビ放映で今日の給食の話題や栄養に関わる話、生産者の声などを流すことでの食育もできると考えます。栄養教諭の学級訪問は数多くできないと思いますので、ビデオや吹き込んだものを流すとか放送委員の子どもたち、あるいは給食委員の子どもたちの活動資料となる物を提供す 	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>る方法も考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none">・生産者を取り込んで、生産の場と食べる消費の場の交流をもってはいかがでしょうか。小牧市も都市化が進んで、生産の様子を知らない子どもたちがいるようです。せつかく近くに生産者がいらっしゃるの、その話を聞く機会があるといいです。・栄養バランスのとれた給食の献立作成や、地元の農産物を取り入れた給食は子どもも興味が湧きます。今後も引き続きよろしくお願いします。
--	--

基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

- ④ 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。
- ④ 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	経済的に困窮している児童生徒の保護者に対する費用の助成・就学援助（施策11）	担当課 学校教育課																				
内 容	経済的な理由で就学が困難な市内小中学校に通う児童生徒の保護者に対する就学援助を実施し、保護者の負担を軽減します。																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、給食費や学用品費などの一部を援助しました。 ・新小学1年生に対しては、10月に実施する就学時健診の案内に就学援助制度を同封するとともに、各学校で実施する就学時健診時においても改めて保護者に説明しました。新中学1年生に対しては、10月に、中学校進学に伴って必要となる新入学学用品費の援助制度について周知しました。さらに、全学年の児童生徒に、11月に就学援助制度の内容を整理して記載したお知らせを配りました。 ・国の要綱改正に準じ、臨時休校等に伴うオンライン学習の実施に備えて、オンライン通信費の助成を新設しました。 <table border="1" data-bbox="491 1234 1414 1384"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">R2年度</th> <th colspan="2">R元年度</th> <th colspan="2">H30年度</th> </tr> <tr> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学援助費</td> <td>794人</td> <td>413人</td> <td>782人</td> <td>414人</td> <td>795人</td> <td>411人</td> </tr> </tbody> </table>		項目	R2年度		R元年度		H30年度		小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	就学援助費	794人	413人	782人	414人	795人	411人
項目	R2年度			R元年度		H30年度																
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校																
就学援助費	794人	413人	782人	414人	795人	411人																
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の主旨や仕組みに対する問合せが多いため、制度内容をより一層わかりやすく周知する必要があります。 																					
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする児童生徒が援助を受けられるよう、より一層わかりやすい周知に努めます。 ・情報連携による申請時の添付書類の省略などを検討し、申請手続きの簡略化を進めます。 																					
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的要因によって就学が困難にならないよう、引き続き取り組みを行う必要があります。 ・簡単な申請かつスピーディーな援助が肝要です。 ・オンライン通信費の助成新設など、時に応じた支援体制づくりは、とても良いことだと思います。また、申請手続きの簡略化についての検討もよい取り組みです。引き続きの改善を期待しています。 ・コロナ禍でより多くの子どもたちがこのような状況になると考え 																					

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>られます。是非周知するシステムの構築と素早い対応が出来る環境作りが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">・SDGsの観点からも拡充願います。
--	---

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	児童生徒に対する学習支援の実施（施策11）	担当課 こども政策課										
内 容	「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員OBなどの協力を得て、学習支援活動に取り組めます。											
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度より全中学校区を対象として、市内4地区で実施しており、学校の協力のもと、全生徒に募集チラシを配布するとともに、福祉総務課及び学校教育課と連携し、生活保護世帯、児童扶養手当受給者及び就学援助費受給者へ働きかけを行いました。 4教室合わせて37名の参加があり、基礎学力に合わせた個別の学習支援を実施しました。 参加する生徒や保護者を対象としたアンケート結果から満足度は高く、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子が窺えました。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、公共施設が約2ヶ月間利用停止となり、年間43回の開催予定が34回となりました。 <table border="1" data-bbox="491 1099 1367 1682"> <tr> <td>開催日等</td> <td>毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間34回開催</td> </tr> <tr> <td>参加料</td> <td>無料</td> </tr> <tr> <td>対象教科</td> <td>数学、英語を中心に5教科</td> </tr> <tr> <td>学習内容</td> <td>宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。</td> </tr> <tr> <td>学習体制</td> <td>各教室とも学習支援員2～3名、学習サポーター2～3名の体制で、講師1名につき生徒2～3名を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。</td> </tr> </table> <p>【東部地区】 場 所：東部市民センター学習室・視聴覚室 参加生徒：12名（篠岡中6名・桃陵中2名・光ヶ丘中4名） 登録講師：18名（学習支援員13名・学習サポーター5名）</p> <p>【北里地区】 場 所：北里市民センター集会室</p>		開催日等	毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間34回開催	参加料	無料	対象教科	数学、英語を中心に5教科	学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。	学習体制	各教室とも学習支援員2～3名、学習サポーター2～3名の体制で、講師1名につき生徒2～3名を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。
開催日等	毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間34回開催											
参加料	無料											
対象教科	数学、英語を中心に5教科											
学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。											
学習体制	各教室とも学習支援員2～3名、学習サポーター2～3名の体制で、講師1名につき生徒2～3名を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。											

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>参加生徒：8名（北里中4名・小牧西中4名） 登録講師：8名（学習支援員7名・学習サポーター1名）</p> <p>【味岡地区】 場 所：味岡市民センター視聴覚室 参加生徒：9名（味岡中6名・岩崎中3名） 登録講師：14名（学習支援員6名・学習サポーター8名）</p> <p>【小牧地区】 場 所：中部公民館会議室2 参加生徒：8名（小牧中7名・応時中1名） 登録講師：12名（学習支援員8名・学習サポーター4名）</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加している生徒は、母子（父子）家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習理解度の差もあるため、教える側の多面性が求められています。 ・生徒との信頼関係を築くため、学習支援員及び学習サポーターの固定配置が理想ですが、講師の希望に合わせたローテーションを組んでいるため、固定配置は難しいです。 ・不登校傾向の生徒は一旦休むと欠席が長期化するため、継続して参加していただけるような環境づくり、働きかけが求められています。 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、新規塾生が7名と少数だったため、登録講師数が参加生徒より過剰となり、講師のモチベーションの維持が課題となりました。 ・本来、駒来塾を必要とする生徒が入塾できているのか懸念があります。 ・市内4地区の塾が同じ運用をされている必要があります。
<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒と登録講師数のバランスを保つため、新規生徒の申込状況を見ながら、講師の募集を進めていきます。 ・できるだけ新規生徒が学ぶ時間が取れるよう、入塾の時期の見直しを検討します。 ・運営や指導方法等情報共有を図るため、定期的に塾長会を開催します。 ・市内全地区が対象となり、地区の分割の必要性などを含む今後の運営について議論を進める必要があるため、定期的に運営委員会を開催します。
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲のある生徒への学習支援を引き続き充実させながら、意欲を引き出す働きかけを行うことも必要です。 ・人（教師）に会いに来るような子どももいますので、あたたかい

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>雰囲気づくり、可能な限りの講師の固定配置を望みます。</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のため参加生徒が減少となりましたが、今後もこの取り組みを継続してほしいと思います。学習支援のみならず居場所、家庭・学校外での大人とのかかわりの場としても大切です。登録されている支援の方々が多くいて、頼もしい小牧です。・良い支援です。生徒の自主的参加に基づくため、ヤングケアラーなどへの学習支援も検討していただけると有難いです。・とても良い取り組みだと思います。ぜひ継続していただきたいです。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	こども夢・チャレンジ事業の展開（施策13）	担当課 こども政策課
内 容	こどもの将来等を育むきっかけとして様々な事業を展開します。 ①学習支援事業「駒来塾」 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ⑥こども夢サポーター制度	
達成状況	・「こども夢・チャレンジNo.1都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。 ①学習支援事業「駒来塾」 ※施策11参照 ②プログラミング講座 小学校4～6年生20名を対象に、11月頃中部大学に事業委託して実施予定でしたが、中部大学から申し出があり、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。 ③市内産業見学会開催事業 小学5・6年生及び中学生対象に、地元企業等への愛着を育む機会として、夏休みを利用し、市内企業の見学や職業体験を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としました。 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 25歳以下の高校、大学等の在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限1件30万円）を支給し、若者の夢を応援する事業ですが、新型コロナウイルス感染症の影響により第1回目の募集（4月～5月）は中止とし、第2回目の募集（8月～9月）は実施しましたが、応募はありませんでした。 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 海外の大学に、3ヵ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の国や地域に応じて、12ヵ月を上限に、月額3万～5万円を支給する事業です。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により第1回目の募集（4月～5月）は中止とし、第2回目の募	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>集（10月～11月）は実施しましたが、応募はありませんでした。</p> <p>*④夢にチャレンジ助成金支給事業及び⑤大学生等海外留学奨学金支給事業は、近年応募件数が減少傾向であったため、その要因を把握し、両事業とも使いやすい制度となるよう、次のとおり令和2年度に見直しをしました。</p> <p>【夢にチャレンジ助成金制度】 令和3年度から、対象者を市内在住、在学の満15歳以上満25歳以下の高校生、大学生、社会人等とし、在学者については住所要件を外します。これにより市内高校、大学に通う方がグループ単位での応募も可能となります。</p> <p>また、活動期間を単年度ではなく、翌年度末まで可能となるよう予算措置します。</p> <p>さらに、この制度を将来活用していただけるよう、その契機として中学生を対象とした夢を語る発表の場「夢にチャレンジ発表会」を新規で創設します。</p> <p>【大学生等海外留学奨学金制度】 令和3年度から、対象者を市内在住の満15歳以上満25歳以下の高校生、大学生、社会人等に拡充し、留学形態も大学の認定留学以外に「語学力の向上を目的とする留学」を追加し、また、所得基準については、日本学生支援機構の第一種奨学金支給基準を準用してきましたが、第二種奨学金支給基準に緩和します。</p> <p>⑥こども夢サポーター制度 市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢・サポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈するとともに、市のホームページで各登録者の取り組みを紹介しました。</p> <p>また、登録団体に対し、活動状況などに関するアンケート調査を実施しました。</p> <p>【登録数】（各年度末現在）</p> <table border="1" data-bbox="486 1771 1401 1872"> <thead> <tr> <th>R2年度</th> <th>R元年度</th> <th>H30年度</th> <th>H29年度</th> <th>H28年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3団体</td> <td>4団体</td> <td>7団体</td> <td>32団体</td> <td>26団体</td> <td>72団体</td> </tr> </tbody> </table>	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度	合計	3団体	4団体	7団体	32団体	26団体	72団体
R2年度	R元年度	H30年度	H29年度	H28年度	合計								
3団体	4団体	7団体	32団体	26団体	72団体								
課 題	<p>①～⑤共通 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら、継続的に事業を実施できるよう、計画する必要があります。</p>												

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>①学習支援事業「駒来塾」 ※施策11参照</p> <p>②プログラミング講座、③市内産業見学会開催事業 ・参加する子どもたちにとって有意義なものとなるよう、大学や企業と企画内容を調整する必要があります。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、市内企業や大学と調整を図り、安全、安心に実施できる内容とする必要があります。</p> <p>④夢にチャレンジ助成金支給事業、⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 令和2年度に見直した制度内容について、広報こまきやホームページで十分周知し、応募者の増加につなげていく必要があります。</p> <p>⑥子ども夢サポーター制度 ・応募件数が少ないため、事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を高める必要があります。 ・制度の趣旨に賛同して登録していただいた後、子ども夢・サポーターを市としてどのように活用していくのかが明確ではありません。 ・登録団体が子どもたちの夢の実現に向けた支援活動を、具体的に取り組めるような仕組みづくりを検討する必要があります。</p>
<p>今後の取組の方向性</p>	<p>①学習支援事業「駒来塾」 ※施策11参照</p> <p>②プログラミング講座、③市内産業見学会開催事業 子どもたちが将来の希望や夢を持てるよう、その契機となるような取り組みを検討します。</p> <p>④夢にチャレンジ助成金支給事業 新規に創設する「夢にチャレンジ発表会」の効果を踏まえつつ、「夢にチャレンジ助成金」の活動内容や対象拡大について、引き続き検討を進めます。</p> <p>⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 社会人留学や語学留学の応募状況等を踏まえ、海外留学の夢を持つ若者への支援につながる制度となるよう検討をすすめます。</p>

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>⑥こども夢サポーター制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上や広報にて制度を分かりやすく紹介し、登録のメリットを明確にしていきます。 ・令和2年度に実施したアンケート結果を参考に、夢にチャレンジ助成金制度と連携した支援活動のあり方について、検討を進めます。
<p>評価委員 の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸事業について、意図、得られるメリットや求める事柄等をターゲット者の目線でわかりやすく周知をする必要があるでしょう。 ・小牧市の掲げる目標にかかわる目玉事業。小牧ならではの「人・地域を生かした」これらの事業が進んでいくことを期待します。課題克服のための策を真剣に考えてみえ、素晴らしいと思います。広く知ってもらい、ワクワクしてくれる人が増えることを願います。 ・こども夢サポーターは、子どものどんな夢をサポートするのか明瞭ではありません。海外留学やプログラミング、産業見学会、夢チャレンジ助成金などははっきりしているので、少し区分した方が良いのではないのでしょうか。 ・プログラミング講座や市内産業見学会にとっても興味を持ちました。新型コロナウイルスで中止とのことでしたが、今後ぜひ実施していただきたいです。 ・コロナの影響を受けた事業が多かったが、1人1台のタブレットが実現したことなどを考慮して、将来学校のタブレットPCの活用により遠隔で実施する方法も取り入れられる可能性があります。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	ICT機器の整備・充実（施策14）	担当課 学校教育ICT推進室
内 容	国のGIGAスクール構想に沿い、「小牧市学校教育ICT推進計画」を見直し、児童生徒1人1台端末の学習環境を実現するためのネットワーク環境の整備やICT機器の導入を進めます。また、ICT教育のモデル校において、検証を進めます。	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「小牧市学校教育ICT推進計画」について、GIGAスクール構想の実現に向けて令和2年度以降に取り組む項目等を追補形式により見直ししました。 【パイオニア校（味岡小、大城小、味岡中、光ヶ丘中）】 ・児童生徒1人1台端末に導入するソフトウェアについて、パイオニア校において、授業支援ツール（SKYMENU Class、ジャストスマイル、ロイロノート）、ドリル教材（eライブラリアドバンス）の機能を積極的に活用し、各ソフトウェアの有効な機能や使い勝手等の情報を収集・蓄積し、費用面も含めて総合的に検討しました。その結果、授業支援ツールとしてロイロノート、ドリル教材としてeライブラリアドバンスを選定しました。 【全小中学校】 ・児童生徒1人1台端末環境における同時利用台数の増加に伴う通信容量不足を防ぐため、小牧小学校、小牧南小学校、味岡中学校を除く市内22小中学校において、校内LANのケーブルを10Gbpsの通信が可能となるケーブルに更新しました。また、全小中学校のWi-Fi環境が未整備の体育館及び運動場にアクセスポイントを設置しました。 ・各学校の学習系ネットワークのインターネット接続について、現状のセンターサーバを経由する通信方法では1人1台端末の使用に対応できないことが判明したため、各学校に光回線（1Gbps）を接続し、各学校から直接インターネット接続できる環境を整備しました。 ・児童生徒1人1台端末のOSについては、小学校は低学年でも直感的に操作がしやすいiOS、中学校は社会・企業で使われているICTスキルを身につけることの重要性から、Windowsを選定しました。 ・児童生徒1人1台端末及び充電保管庫を整備しました。あわせて、小学校のコンピュータ教室のノートPC（360台）を中学校のコンピュータ教室に移設しました。 	

点検評価シート（令和２年度実績）

- ・小学校では、タブレットPCのカメラ機能を活用して、マット運動の自分の動きをスロー再生して確認したり、友だちのリコーダーの演奏動画を聞き合っ、良かったところを伝えたりする授業実践が行われました。
- ・プログラミング教育においては、プログラミングソフトにより児童が考えた楽譜を再生し、修正を重ねて試行錯誤したり、起床してから家を出るまでの行動をフローチャート化し、順序だてて考えたりする授業実践が行われました。
- ・中学校では、生徒会活動でタブレットPCを活用したアンケート調査を行い、集計時間の短縮化に取り組んだり、ペアで自己紹介の英語スピーチを撮影し、過去の動画と比較することで改善点を洗い出したりする授業実践が行われました。
- ・中学校卒業式においては、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として密を避けるため、在校生を各教室に待機させ、体育館で行われている卒業式の様子をウェブ会議システムにより各教室へ同時配信する取り組みが行われました。

【全小学校】

- ・小学校の特別教室（理科室、家庭科室、図工室）に新たに実物投影機（計 38 台）を設置しました。

【令和２年度の整備状況】

区分	小学校	中学校
タブレットPC	iPad 8,487台	Surface Go2 3,082台
充電保管庫（10台収納）	26台	13台
充電保管庫（40台収納）	254台	114台

【パソコンの配備台数（令和２年度末）】

（次の表に続く）

区分	児童生徒 1 人 1 台分			
	G I G A スク ール構想分	モデル校よ り移管	P C 教室 より移管	移動用より 移管
小学校	8,487 台 (iPad)	-	-	-
内 R2 年度更新	(8,487 台)	-	-	-
中学校	3,082 台 (Surface Go2)	792 台 (Surface Go)	360 台 (Surface Go)	89 台 (Surface Go)
内 R2 年度更新	(3,082 台)	-	-	-
合計	11,569 台	792 台	360 台	89 台

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>(前の表の続き)</p> <table border="1" data-bbox="486 241 1401 584"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>PC 教室分</th> <th>普通教室・特別教室分</th> <th>校務支援等分</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>296 台</td> <td>832 台</td> <td>407 台</td> <td>10,022 台</td> </tr> <tr> <td> 内 R2 年度更新</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(8,487 台)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>369 台</td> <td>466 台</td> <td>312 台</td> <td>5,470 台</td> </tr> <tr> <td> 内 R2 年度更新</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>(3,082 台)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>665 台</td> <td>1,298 台</td> <td>719 台</td> <td>15,492 台</td> </tr> </tbody> </table>	区分	PC 教室分	普通教室・特別教室分	校務支援等分	計	小学校	296 台	832 台	407 台	10,022 台	内 R2 年度更新	—	—	—	(8,487 台)	中学校	369 台	466 台	312 台	5,470 台	内 R2 年度更新	—	—	—	(3,082 台)	合計	665 台	1,298 台	719 台	15,492 台
区分	PC 教室分	普通教室・特別教室分	校務支援等分	計																											
小学校	296 台	832 台	407 台	10,022 台																											
内 R2 年度更新	—	—	—	(8,487 台)																											
中学校	369 台	466 台	312 台	5,470 台																											
内 R2 年度更新	—	—	—	(3,082 台)																											
合計	665 台	1,298 台	719 台	15,492 台																											
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 膨大な台数の I C T 機器を効率的に管理する方法を検討する必要があります。 学習者デジタル教科書の導入について、国の動向を注視しつつ、検証していく必要があります。 国の「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」を踏まえ、児童生徒の個人情報等を含む校務系情報に対するインターネット経由の標的型攻撃や不正アクセスを防止する必要があります。 																														
<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員及び児童生徒のアカウント等を効率的に管理することができる I D 管理システムを導入します。 文部科学省の令和3年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」において、小学校3校・中学校3校で実証事業に取り組みます。 教育ネットワークを、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、学校ホームページの編集や保護者メールの送信などインターネット接続を行う「校務外部接続系」、教育活動において主に児童生徒が利用する「学習系」に分離します。 																														
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教員が安心して利用できるような支援体制が重要です。授業支援ツールを使用することで、教員の負担を減らしながら、児童生徒の情報交換を行うことが可能になり、学び合う学びのためにも有効です。情報セキュリティの向上の取り組みが計画されており、これを早急に行う必要があります。 I C T 機器は数年経つとスペックの乏しさが目立つようになります。定期的に更新などをしていくための方策を今から準備しておくことを期待します。 この1年で整備がかなり進んだことが分かります。児童生徒の活用事例についても具体的に記載していただき、様子がよく理解できました。中心になって進められた市当局、パイオニア校の先生方をはじめ関わられた多くの方のご尽力だと思います。今後、トラブルを生じさせないための管理システム、ネットワーク分離等 																														

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>を着実に進めていってくださることを期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度は、テレワーク・リモート学習や会議といったネットワーク環境を活用した様々な体制が急激に発展した1年だったと思います。必要に迫られた形ではありましたが全国各地で展開された休校中における学校のリモート授業や臨時的な学習指導の形態などは、学校教育の新たな方向を考えるための具体的なヒントであったようにも思います。・ICTが広く利用され、学校でも迅速に整備が進められ、授業でもどんどん取り入れられており、今後のさらなる進展に期待しています。・児童生徒全員がタブレットPCを持って活用できることは良いことです。最初はタブレットPCで、先生に言われたとおり操作したり、動画を見るだけだったりと受け身になります。タブレットPCの使用を通して自主的に学習や創造することができるようになると良いです。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校施設の改修（施策14）	担当課 教育総務課
内 容	老朽化・狭隘化が進んでいる小牧南小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。令和元年度に実施した実施設計に基づき、改築工事に着手します。また、特別教室へのエアコンの設置について、中学校での設置工事を実施するとともに、小学校での設置工事の設計を実施します。	
達 成 状 況	<p>【小牧南小学校改築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に実施した実施設計に基づき、改築工事に着手し、出来高30%程度を確保しました。 工事着手前に地元説明会を開催し、改築工事の概要を周辺住民へ周知しました。 <p>【特別教室へのエアコン設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> エアコンがない中学校の特別教室へのエアコン設置工事を実施しました。 エアコンがない小学校16校のうち7校の特別教室へのエアコン設置工事に向けて、設計を実施しました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 小牧南小学校改築工事が、令和2年度から令和4年度までの3年間にわたるため、工事期間中は、良好な教育環境の確保に努めるとともに、児童の安全確保や周辺住民への配慮にも努める必要があります。 特別教室へのエアコン設置工事は、学校運営への支障が最小限となるよう、可能な限り、夏休み中に集中して施工する必要があります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に引き続き小牧南小学校改築工事を実施し、令和3年度に校舎と体育館を竣工し、令和4年度に既存校舎と体育館の解体及び外構工事を実施します。 小牧南小学校改築工事は、工事期間が3年間にわたるため、工事業者と綿密に調整し、安全管理に努めます。 	
評 価 委 員 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策のための換気が求められる中でエアコンは必須ですので、引き続きの取組みを期待します。 小学校特別教室にも早くエアコンを設置して、子どもたちの健康管理・授業の効率化を図ってください。小牧南小学校の改築工事が安全かつ着実に進められることを願っています。 ぜひ安全に改築工事を進めてください。新しいシステムや教室のあり方、学習の進め方などと連携して、次世代の学校づくりが行われるといいです。 	

基本目標4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

- ④ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。
- ④ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	教育・保育の質の向上（施策16）	担当課
		幼児教育・保育課
内 容	第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達段階に配慮した心の教育の充実に努めます。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、第一幼稚園の公開保育・第1回幼年期教育研修会は中止とし、第2回幼年期教育研修会はWEB研修で行いました。WEB研修では、幼保小中の連携について、小学校の学習環境を通して改めて考える機会となりました。 ・令和2年度から始まった新しい小学校学習指導要領を踏まえ、具体的に「せいかつ」の教科書の内容から、保育者と教員との連携がなぜ必要かを考え、理解を深めることができました。 	
	幼年期教育連携推進会議 (2回開催)	6月 ・愛知県幼児教育研究協議会報告 ・意見交換 1月 ・愛知県幼児教育研究協議会について ・コロナ禍における現状と課題
	第1回幼年期教育研修会（講義）	中止
	第一幼稚園公開保育	中止
	第2回幼年期教育研修会 (動画配信によるWEB研修会) テーマ『保育と初等教育を繋ぐ学習環境の工夫 - 保育はどう繋がるのか-』	幼稚園2名、保育園18名、小学校8名、中学校6名、計34名
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を共有し、連携・協働して育てていくために、引き続き関係機関が互いに連携し、理解を深めることが必要です。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

<p>今後の取組 の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の招聘や事例検討を通して、子どもたちの育ちや学びについての理解を深めていく。同時に幼稚園、認定こども園、保育園における遊びの中での学びを、どのように小学校、中学校における学習の中での学びにつなげていくのか、具体的な実践方法についても考えていきます。今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、会議等に参加を促していきます。
<p>評価委員 の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対面の研修をオンラインで代替実施できたことは、大きな成果です。新学習指導要領の生活科の内容を共有したことも有効な取り組みです。 ・重要なテーマですので、引き続きの取組みをお願いします。 ・どのような子どもを育てていくのか、そのためにそれぞれの発達段階で大切にすること、そのつながりを考えていくことが必要です。まずはお互いを知る→理解する→学び合う関係づくり、点ではなく、線あるいは面としての意識が必要。連携の必要性をより深く理解するためにどうしたらよいか、今までの取組みを継続することも大事ですが、何かよりよい策が講じられるといいのですが。 ・幼児期から小学校→中学校まで子どもたち一人ひとりの追跡教育がされるのは素晴らしいです。教師・保育士の連絡や仕事量の増加が見込まれますが、さらに連携が深まるような一人ひとりを大切にした取組みが出来るとよいです。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	家庭教育推進事業の実施（施策17）	担当課 学校教育課
内 容	各小中学校PTA等と連携を図り、家庭教育について学び合い、ふれ合う機会を充実し、地域ぐるみで子どもの成長を育む活動を実施します。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により限定的な取り組みとなっ てしまいましたが、可能な限り各小中学校PTA及び各保育園・幼稚園と連携を図り、子どもの成長を育む家庭教育活動に取り組みました。 ・例年開催していた家庭教育講演会は、当初は6月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により10月に延期して様子を見ていました。しかしながら、感染拡大状況が収まること がなかったため、感染予防の観点から、今年度はやむを得ず中止としました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染予防に取り組みながら、引き続き、各小中学校PTA及び各保育園・幼稚園と連携を図っていく 必要があります。 ・家庭教育講演会は、コロナ禍でも開催できる方法を検討していく 必要があります。 	
今後の取組 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の優良事例を紹介することによって、引き続き、各小中学校PTA及び各保育園・幼稚園における家庭教育活動を支援しま す。 ・家庭教育講演会は、感染予防に努めながら開催します。 	
評 価 委 員 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響による子どもの育ちや子育ての悩みを共有できる機 会が望まれます。 ・コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会との協働も目指 して行ってください。 ・コロナ禍中で、ICTを使用した活動が期待されます。 ・コロナ禍で、やれる事が限られてしましますが、子どもと地域の つながりは大切だと思うので、引き続き活動を実施していただき たいと思います。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	放課後子ども総合プラン（施策18）	担当課 こども政策課															
内 容	放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する仕組みづくりを推進します。令和2年度は、小牧市における放課後子ども総合プランのモデル事業の実施に向けた制度設計を進めます。																
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に引き続き、小牧市の実情に応じた小牧市放課後子ども総合プランの導入に向けて、総合的なあり方を検討しました。 <table border="1" data-bbox="491 622 1412 1014"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>実施日</th> <th>主な議題等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>6月3日（水）</td> <td>モデル事業の実施について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>7月16日（木）</td> <td>モデル事業の実施について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>9月1日（火）</td> <td>モデル事業の実施について 小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>10月13日（火）</td> <td>小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書等について</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度のモデル地区を小牧・光ヶ丘小学校で行うこととし、合同の体験活動の内容や、利用者への周知等について関係者と協議を行いました。 		回数	実施日	主な議題等	第1回	6月3日（水）	モデル事業の実施について	第2回	7月16日（木）	モデル事業の実施について	第3回	9月1日（火）	モデル事業の実施について 小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書について	第4回	10月13日（火）	小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書等について
回数	実施日	主な議題等															
第1回	6月3日（水）	モデル事業の実施について															
第2回	7月16日（木）	モデル事業の実施について															
第3回	9月1日（火）	モデル事業の実施について 小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書について															
第4回	10月13日（火）	小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書等について															
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 児童クラブは、児童が増加傾向にある学校については、引き続き条例の基準を満たせるよう必要な対応を行う必要があります。 放課後子ども教室は、ボランティアによる運営のため、週1回の開催と各校定員30人程度が限度であり、指導員の人材確保、特別に配慮が必要な児童への対応や新学習指導要領の改訂による授業数の増加の影響など、より一層、学校との連携が必要です。 従事者や活動場所の現在の確保状況では、国が示すような、すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは困難です。事業の円滑な実施のためには、現在の従事者だけでなく、外部のボランティア、有償の講師など様々な従事者を継続的に確保する仕組みづくりが必要です。 放課後子ども総合プランで提供する活動内容は、児童、従事者ともに飽きたり疲弊したりしないように工夫する必要があります。 放課後子ども総合プランの着実な実施のためには、様々な団体をつなぎ、助言できるコーディネーター的な人材が不可欠です。 																
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度からのモデル事業の評価・検証を通じて、令和4年度からの事業計画を検討します。 モデル地区以外においても、引き続き、各教室にて児童クラブと放課後子ども教室との共通プログラムの仕組みづくりを推進し 																

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>ていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度から「放課後子ども総合プランコーディネーター」を中心に、まずはモデル事業の実施を進めていきます。
<p>評 価 委 員 の 意 見 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業で明らかになった成果と課題をもとに、施策を進めていくことが望まれます。 引き続きの取組みをお願いします。 少しずつ具体的な方策を考え進められていることが分かります。今後も着実に進めていってください。 放課後に学校を使つてのトワイライトスクールのような活動は今後もっと必要になって来ることでしょう。教員OBの他、地域に住むボランティアを募つて多くの人の援助で、子どもたちの安全と学習の広がりができると思います。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	コミュニティ・スクールの推進（再掲）（施策19）	担当課 学校教育課
内 容	各小中学校がより一層特色ある教育活動に取り組み、小牧市の特性を活かしたコミュニティ・スクールを推進していくため、他自治体の先進・優良事例を紹介するコミュニティ・スクール研修会を開催し、各小中学校の活動を支援します。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末に市内11小学校区で設立された地域協議会の目的や組織、活動内容を取りまとめたコミュニティ・スクール推進ガイドライン（vol.3）を、各小中学校へ配付し周知しました。 令和2年度は、その内容を踏まえて、学校運営協議会と地域協議会の今後の連携を意識した検討を進める予定をしていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会の開催やコミュニティ・スクールを推進するための検討を進めることができませんでした。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によりコミュニティ・スクールの推進することが困難な状況であり、令和3年度も様子見の1年になることが予想されます。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の学校運営協議会において、趣旨や目的を説明するとともに、「目指す子どもの姿」や「目指す学校の姿」を話し合い、目標やビジョンの共有を一層図っていきます。 各学校の担当者を対象としたコミュニティ・スクールに関する研修会を開催するなど、各学校での活動を支援していきます。 各学校がコミュニティ・スクールの活動を円滑に進められるように、学校と地域が活動しやすい予算のあり方について引き続き検討を進めます。 	
評 価 委 員 等 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> 対面での会合やイベントの実施が困難でありつつも、コロナによって地域と学校の結びつきがより一層大切になっています。学校からの情報発信を充実し、保護者・地域の声を吸い上げ、「社会に開かれた教育課程」に向け、ウィズコロナ、ポストコロナにおける、地域と学校の繋がりを期待します。 学校運営協議会が主体となった活動が、より活発になることを期待します。 学校のマンパワーだけではとても困難な状況の時こそ、地域の力が必要です。そのためには、説明をする準備や会を開催する時間と労力が学校側に必要となります。課題が多く多忙な今の学校現場では、そのジレンマに苦しんでみえるのでは？今は無理をして疲弊することなく、柔らかなつながりを大切にして今後につなげていってほしいと考えます。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none">・「地域コミュニティの拠点としての学校のあり方」というテーマで話し合った記憶がよみがえって来ました。コミュニティ・スクールが導入されることで変わること、改善が期待されること、さらにはそれによって起きる地域や学校の果たすべき役割など、想定される様々な事柄を児童生徒目線で考えることが大切です。また、今まで必要に応じて設立されてきた地域の多様な組織と、それによって育まれてきた子どもたちとの関係性を今一度考えてみることも大切な視点ではないかと思います。・コロナ禍の中で、コミュニティ・スクール活動が必要となります。今後とも前向きに推進して行ってほしいものです。小規模で始めていただき、様子見が少しでも減じると良いです。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

- ☞ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。
- ☞ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民講座の実施（施策21）		担当課	
			文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター	
内 容	公募により市民が主体となつて行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。			
達成状況	【公民館企画講座】			
	公民館名 (講座数)	回数	内容	延べ 受講者数
	市公民館 (4講座)	5回	地芝居舞台、源氏物語(愛知文教大)、 親子向けAI理解(中部大)、 ボディワーク	129人
	中部公民館 (1講座)	1回	こども天文講座(望遠鏡作成)	30人
	東部市民 センター (3講座)	3回	コサージュ作り、ひめトレ&シナプソ ロジー、お菓子作り	58人
	味岡市民 センター (0講座)	0回	※新型コロナウイルス感染症拡大防 止のため、未実施	0人
	北里市民 センター (0講座)	0回	※新型コロナウイルス感染症拡大防 止のため、未実施	0人
	【市民企画講座】			
	公民館名 (講座数)	回数	内容	延べ 受講者数
	市公民館 (7講座)	27回	フランス語、魅力UP、 ファブリックデコレ、ジャズ、 アロマ、着付け、LGBT理解	411人
	中部公民館 (4講座)	18回	自力整体、指ヨガ、果樹の育て方、 産前産後サポーター養成	315人
	東部市民 センター (4講座)	17回	傾聴、アレンジメント、健康体操、 アイシングクッキー	284人
	味岡市民 センター (5講座)	20回	エコクラフトテープ、タヒチアンダ ンス、美姿勢&表情筋、ミニ着物、料 理	263人
	北里市民 センター (4講座)	18回	オカリナ、そば打ち、料理、歴史探 訪	208人

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>◆市民講座年度別実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>R2 年度</th> <th>R 元年度</th> <th>H30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">市公民館</td> <td>延べ受講者数</td> <td>540 人</td> <td>2,349 人</td> <td>2,786 人</td> </tr> <tr> <td>講座数</td> <td>11 講座</td> <td>27 講座</td> <td>31 講座</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中部公民館</td> <td>延べ受講者数</td> <td>345 人</td> <td>819 人</td> <td>952 人</td> </tr> <tr> <td>講座数</td> <td>5 講座</td> <td>5 講座</td> <td>13 講座</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">東部市民センター</td> <td>延べ受講者数</td> <td>342 人</td> <td>848 人</td> <td>773 人</td> </tr> <tr> <td>講座数</td> <td>7 講座</td> <td>12 講座</td> <td>12 講座</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">味岡市民センター</td> <td>延べ受講者数</td> <td>263 人</td> <td>952 人</td> <td>729 人</td> </tr> <tr> <td>講座数</td> <td>5 講座</td> <td>12 講座</td> <td>14 講座</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">北里市民センター</td> <td>延べ受講者数</td> <td>208 人</td> <td>809 人</td> <td>510 人</td> </tr> <tr> <td>講座数</td> <td>4 講座</td> <td>10 講座</td> <td>11 講座</td> </tr> </tbody> </table>	項目		R2 年度	R 元年度	H30 年度	市公民館	延べ受講者数	540 人	2,349 人	2,786 人	講座数	11 講座	27 講座	31 講座	中部公民館	延べ受講者数	345 人	819 人	952 人	講座数	5 講座	5 講座	13 講座	東部市民センター	延べ受講者数	342 人	848 人	773 人	講座数	7 講座	12 講座	12 講座	味岡市民センター	延べ受講者数	263 人	952 人	729 人	講座数	5 講座	12 講座	14 講座	北里市民センター	延べ受講者数	208 人	809 人	510 人	講座数	4 講座	10 講座	11 講座
項目		R2 年度	R 元年度	H30 年度																																															
市公民館	延べ受講者数	540 人	2,349 人	2,786 人																																															
	講座数	11 講座	27 講座	31 講座																																															
中部公民館	延べ受講者数	345 人	819 人	952 人																																															
	講座数	5 講座	5 講座	13 講座																																															
東部市民センター	延べ受講者数	342 人	848 人	773 人																																															
	講座数	7 講座	12 講座	12 講座																																															
味岡市民センター	延べ受講者数	263 人	952 人	729 人																																															
	講座数	5 講座	12 講座	14 講座																																															
北里市民センター	延べ受講者数	208 人	809 人	510 人																																															
	講座数	4 講座	10 講座	11 講座																																															
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民企画講座受講者の多くは、複数の受講履歴があり、初受講者は少ない傾向にあることから、受講者の固定化が考えられます。新規の講座受講者を発掘していく必要があります。 ・受講生の年齢構成に偏りがあり、幅広い世代へ学習機会を提供していく必要があります。 ・市民のニーズや時代に対応し、オンラインを活用した講座の提供を検討する必要があります。 																																																		
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・市、講師、こまき市民交流テラスが相互に連携し、SNSなどの情報ツールを駆使しながら、幅広い層にアプローチしていきます。 ・ターゲットを絞った企画と広報戦略により、各世代の生涯学習に対する関心を高めます。 ・ウィズコロナ時代においても、オンライン講座などを開催し、様々なニーズに応じた学習機会の提供に努めます。 																																																		
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・新規受講者発掘のためのアイデアが大切です。 ・市民企画講座におけるオンライン開催サポートを充実し、コロナ前と変わらない開催回数 of 充実を期待します。 ・体験しやすいワンデー講座を設け、初受講者を広げるのはどうでしょうか。 ・習字や茶道の他、市の文化協会にあるジャンルを、文化協会の人々に援助を求め、幅広い講座が毎回開かれたら、新規の受講生も増加するのでは。毎週の開催よりもっとスパンを広げると多様な講座が開催できるのではないのでしょうか。 																																																		

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	男女共同参画講座の実施（施策21）		担当課																																																															
			多世代交流プラザ																																																															
内 容	男女共同参画に関する基本的な知識を学ぶ講座をはじめ、出産や育児を期に離職した女性に対する再就職支援や男性を対象にした家庭生活への参画を促すための講座を実施します。																																																																	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次小牧市男女共同参画基本計画ハーモニーⅢの基本目標を基に合計14講座を開催しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度に比べて開催回数が減少しました。 ・男女共同参画の基本的な知識を学ぶ講座をはじめ、意識向上を図るための講座、女性起業家によるこども工作教室を9講座開催しました。また、防災講座の後期と、中学生が性別にとらわれることなく、家庭・学校・地域において男女平等の意識を高め、自分の未来について個性と能力を発揮し、自分らしく生きることを考える機会とするための中学校出張講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。 																																																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>回数</th> <th>定員</th> <th>申込</th> <th>受講者</th> <th>託児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 前期</td> <td>予定5回 中止2回</td> <td>30人</td> <td>40人</td> <td>延べ64人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 後期</td> <td>予定5回 中止2回</td> <td>30人</td> <td>41人</td> <td>延べ91人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>keyword は女性～男女共同参画×防災＝安心できる避難所づくりに備える～ 前期</td> <td>3回</td> <td>30人</td> <td>25人</td> <td>25人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>知って得する女性のための家庭の法律</td> <td>4回</td> <td>30人</td> <td>18人</td> <td>17人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>女性デスクと考えるこれからライフ</td> <td>1回</td> <td>30人</td> <td>10人</td> <td>9人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>心地よい会話をみにつける～相手の気持ちも 自分の気持ちも大切に～</td> <td>予定3回 中止2回</td> <td>30人</td> <td>23人</td> <td>20人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ありのままを認め合う基本のキ</td> <td>3回</td> <td>30人</td> <td>23人</td> <td>23人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>映画「おっさんずルネッサンス」トーク&上映会</td> <td>1回</td> <td>100人</td> <td>146人</td> <td>146人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PonPon 消しゴムはんこ教室</td> <td>2回</td> <td>30人</td> <td>12人</td> <td>12人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						講座名	回数	定員	申込	受講者	託児	新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 前期	予定5回 中止2回	30人	40人	延べ64人	0人	新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 後期	予定5回 中止2回	30人	41人	延べ91人	1人	keyword は女性～男女共同参画×防災＝安心できる避難所づくりに備える～ 前期	3回	30人	25人	25人	2人	知って得する女性のための家庭の法律	4回	30人	18人	17人	0人	女性デスクと考えるこれからライフ	1回	30人	10人	9人	0人	心地よい会話をみにつける～相手の気持ちも 自分の気持ちも大切に～	予定3回 中止2回	30人	23人	20人	2人	ありのままを認め合う基本のキ	3回	30人	23人	23人	0人	映画「おっさんずルネッサンス」トーク&上映会	1回	100人	146人	146人		PonPon 消しゴムはんこ教室	2回	30人	12人	12人	
	講座名	回数	定員	申込	受講者	託児																																																												
	新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 前期	予定5回 中止2回	30人	40人	延べ64人	0人																																																												
	新聞論説委員 歩&哲司の時事ニュース講座 後期	予定5回 中止2回	30人	41人	延べ91人	1人																																																												
	keyword は女性～男女共同参画×防災＝安心できる避難所づくりに備える～ 前期	3回	30人	25人	25人	2人																																																												
	知って得する女性のための家庭の法律	4回	30人	18人	17人	0人																																																												
	女性デスクと考えるこれからライフ	1回	30人	10人	9人	0人																																																												
	心地よい会話をみにつける～相手の気持ちも 自分の気持ちも大切に～	予定3回 中止2回	30人	23人	20人	2人																																																												
	ありのままを認め合う基本のキ	3回	30人	23人	23人	0人																																																												
	映画「おっさんずルネッサンス」トーク&上映会	1回	100人	146人	146人																																																													
	PonPon 消しゴムはんこ教室	2回	30人	12人	12人																																																													
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活への参画を促すため、親子で取り組む内容の男性支援講座を2講座開催しました。また、料理講座は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止としました。 																																																																		

点検評価シート（令和2年度実績）

講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
家事ってオモシロイ！！お父さんと一緒に学ぶ家事講座 一期	2回	12組	12組	11組	3人
家事ってオモシロイ！！お父さんと一緒に学ぶ家事講座 二期	2回	12組	14組	11組	0人

・ひとり親家庭の自立支援や、出産や育児を期に離職した女性に対する再就職支援のための、また、起業を希望する女性に対し起業に必要な知識を得るための就労支援講座を2講座開催しました。

講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
ママたちの井戸端会議 in 小牧市	1回	15人	4人	4人	1人
3日で学ぶ徳満式成功術 起業女子の第一歩 ～なりたい自分になる！～	3回	12人	12人	12人	3人

・経営者、人事担当者、管理職、一般社員を対象に、アンガーマネジメントに対する理解や知識を深めることで、健全な職場の環境づくりを目指すための企業啓発講座を1講座開催しました。

講座名	回数	定員	申込	受講者	託児
自分のイライラと上手につき合うアンガーマネジメント講座	1回	30人	49人	49人	

◆男女共同参画講座等年度別実績

項目		R2年度	R元年度	H30年度		
男女共同参画講座	延べ受講者数	男性	183人	173人	114人	
		女性	224人	406人	245人	
	講座数		9講座	20講座	13講座	
	男性支援講座	延べ受講者数	男性	22人	48人	81人
		女性	0人	0人	0人	
	講座数		2講座	5講座	6講座	
	就労支援講座	延べ受講者数	男性	0人	0人	0人
		女性	16人	39人	71人	
	講座数		2講座	3講座	3講座	
	企業啓発講座	延べ受講者数	男性	14人	58人	41人
		女性	35人	56人	14人	
	講座数		1講座	2講座	1講座	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>◆男女共同参画普及員の配置状況</p> <table border="1" data-bbox="491 237 1254 439"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2 年度</th> <th>R 元年度</th> <th>H30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置区</td> <td>26 区</td> <td>29 区</td> <td>28 区</td> </tr> <tr> <td>男性</td> <td>26 人</td> <td>26 人</td> <td>25 人</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>21 人</td> <td>24 人</td> <td>24 人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2 年度	R 元年度	H30 年度	配置区	26 区	29 区	28 区	男性	26 人	26 人	25 人	女性	21 人	24 人	24 人
項目	R2 年度	R 元年度	H30 年度														
配置区	26 区	29 区	28 区														
男性	26 人	26 人	25 人														
女性	21 人	24 人	24 人														
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催した講座のうち、3 講座でサークルが誕生し、新たなサークル活動へつなぐことができました。一方、申込者数が定員を割る講座が全体の半数にのぼっているため、来年度の講座内容について検討を行います。 ・地域や家庭へ男女共同参画意識の普及・啓発のため、各区に男女共同参画普及員の設置をお願いしているが、設置区数が増えていないため、登録した普及員のみでの研修会開催方法を見直します。 																
<p>今後の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こども未来部多世代交流プラザとして、子ども・子育て世代へ向けた啓発を中心に、子ども・親子・祖父母対象の講座、中学校出張講座や夏休み期間の子どもを対象とした講座を検討します。 ・令和2年度に誕生したサークルを活躍へつなげる講座（料理講座等）を開催し、一般募集を行いながら、サークルが活動維持する場、知識を深める場としても講座を企画します。また、多世代交流プラザ（こまき市民交流テラス・こまきこども未来館・小牧市子育て世代包括支援センター・小牧市えほん図書館・小牧市まなび創造館）のみでなく、中央図書館など小牧駅一帯となるイベントを企画し、地域活動における女性の活躍・男女共同参画を促します。 ・男女共同参画普及員の設置区数を増やすため、現在活動している区を参考モデルとして紹介したり、設置のない区に出向いて設置を促したりします。 ・アンケート結果や令和2年度の講座申込率から企業啓発講座の必要性を感じたため、「ワーク・ライフ・バランスの促進」「男性管理職等に対する意識啓発」のための講座数を増やします。 ・女性の就職支援・女性の起業支援のための講座を行います。 ・性的少数者への理解を促進する講演会の開催やパートナーシップ制度の調査・研究を行います。 ・男女共同参画の視点からの防災講座の見直しを行います。 																
<p>評価委員の意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの開催も普及・啓発につながると思われます。 ・受講者アンケート等を活用して、学習ニーズを的確に拾い上げ、内容（テーマ）のブラッシュアップをしていってください。 ・多世代交流プラザや中央図書館等との連携や場所を活用して、事 																

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>業を推進し様々な働きかけを可能としていくことはよいことだと思います。</p> <ul style="list-style-type: none">・昨年度末の市議会の質問にもありましたが、昨年度はいろいろな場面で男女の問題や性の多様性（LGBTQ+など）の話題が多かった年だったと思います。今までの感覚で捉えた男女感から、一步踏み込んで「性」を考えることが求められてきたと感じています。本市の「ハーモニー計画」の見直しの視点になるかもしれないと感じました。・広範囲の視点から男女共同参画講座が開催されていて、市民はどのように男女共同参画を捉えたらよいのか分からないので、参加が少ないように感じます。項目を整理して、年度毎など変化や積み上げ式にしていっていかげでしょうか。
--	---

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	生涯学習を推進する人材育成講座の開催 (施策22)	担当課		
		文化・スポーツ課		
内 容	学びの成果を地域活動などにつなぐため、人材育成のための講座を開催します。			
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での講座やサークルの運営手段として有効な Zoom について学んでいただくため、「Zoom 初心者講座(対面講座)」を企画しましたが、緊急事態宣言発出で中止しました。 ・「講師スキルアップ講座」は、グループで学ぶこと、関係づくりをしてから学ぶこと、学び手同士が学び合い高め合うことをテーマに、講座が魅力的になるための工夫を考えるという内容で開催しました。また、実際にオンライン講座 (Zoom) で行うことにより、よりよい手法を学べる機会を提供するとともに、コロナ禍の時節に即したものとなりました。 			
	開催日	内容	会場	
	2/11	オンライン講座対応のための Zoom 初心者講座	市公民館 学習室 4-4	中止
	2/14	まるっと一日！ 講師スキルアップ講座 (オンライン講座)	Zoom が利用できる安定した Wi-Fi 環境にある自宅など	12 名
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成講座の参加者は、講師経験が豊富な方が多く、講師経験が少ない方は、全体の 1 割程度となっていることから、新たに講師になりたい人材を発掘していく必要があります。 			
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・こまき市民交流テラスと連携し、ボランティア、コーディネーター、サポーターなどから受講生を募集し、地域で活躍できる人材の育成に取り組みます。 			
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン開催ができたことは評価できます。こうした柔軟な取り組みが今後も望ましいです。 ・新規参加者を取り入れられるように周知の方法を工夫してください。 ・市民講座の受講生などに、講師となる人材育成に加わってもらったらいかがでしょう。 			

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	新図書館の建設（施策23）	担当課
		新図書館建設推進室 図書館
内 容	令和2年度末の開館を目指し、令和元年度から引き続き建設工事を行います。また、建設工事と並行して、新図書館用のシステム構築や書籍の購入を進めます。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度から引き続き建設工事を進め、予定通り12月末に建設工事が完工しました。また、建設工事完工後、Wi-Fi環境の整備やデジタルサイネージの設置に着手し、2月末に完了しました。 ・令和2年度当初より計画的に備品類の発注、納入、設置を進め、3月中旬までに、新図書館に必要な備品の納品が完了しました。 ・新図書館用のシステム構築業者と打合せを行い、新たな利用者向けサービスの構築（自動貸出機・返却機、マイナンバーカード対応、スマホ利用者カード等）やICT機器の設置を進め、3月中旬までに構築が完了しました。 ・新図書館用に購入する書籍資料について、約3万点の図書を計画通り購入しました。 ・令和3年3月27日に小牧市中央図書館を開館しました。 	
課 題	/	
今後の取組の方向性	/	
評 価 委 員 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者だけでなく、周辺住民の声も拾い上げながらの運営を期待します。 ・多くの市民が待ち望んでいた念願の図書館が完成し、よかったです。小牧市として誇れる新図書館です。これからの運用により、より幅広い市民の方々が学び、憩える場となり、駅前の活性化にもつながることを願っています。 ・新図書館の開館により小牧駅周辺が徐々に活気を取り戻しているように思います。また、利用者からの評判も良いと聞いています。その事とは別の視点として、一極集中の図書館事業だけではなく 	

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>市内の各公民館などに配置されている「身近な図書館の充実」やそれらと新図書館との連携を視野に入れた図書館事業にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none">• 自動貸出返却機はコロナ禍中でも役立っていて、図書館を休館せずによいシステムがあっただけです。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	生涯学習情報の発信（施策24）	担当課 文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター											
内 容	情報誌やホームページ、SNSなどを活用し、施設や団体の活動情報など、最新の生涯学習情報の発信に努めます。												
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 文化、芸術に関する情報誌「こまぶん」と市民講座やサークル活動などの学びに関する生涯学習情報誌「こまなび」を発行し、多様な生涯学習情報の発信に努めました。 <table border="1" data-bbox="475 589 1297 790"> <thead> <tr> <th>情報誌名</th> <th>発行月</th> <th>発行部数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">こまぶん</td> <td>7月</td> <td>65,000部（全戸配布）</td> </tr> <tr> <td>11、3月</td> <td>各10,000部</td> </tr> <tr> <td>こまなび</td> <td>4、9月</td> <td>各56,500部（全戸配布）</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> こまなびカルチャー講座として「こまきの郷土料理」を3回に渡って、動画配信し、コロナ禍においても情報発信及び学習機会の提供に努めました。再生回数は延べ1,044回（3月末時点）。 		情報誌名	発行月	発行部数	こまぶん	7月	65,000部（全戸配布）	11、3月	各10,000部	こまなび	4、9月	各56,500部（全戸配布）
情報誌名	発行月	発行部数											
こまぶん	7月	65,000部（全戸配布）											
	11、3月	各10,000部											
こまなび	4、9月	各56,500部（全戸配布）											
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 市民の多様な生涯学習活動を支援するために、施設や団体の活動情報などについて、より一層の周知を図る必要があります。 												
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、SNSなどを活用しながら、こまき市民交流テラスと連携し、団体の情報などを発信し、生涯学習に触れるきっかけづくりに努めます。 生涯学習情報誌においても、団体・サークルの活動情報を掲載し、身近に感じてもらうための工夫をします。 												
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 動画配信が有効であったという成果が見られ、時間・場所を限定しないオンデマンド配信を、生涯学習に取り入れることは有効です。特に新規の参加者の拡大には必要であると思われます。 引き続きの取組みを期待します。 「小牧の郷土料理」の動画配信による学習機会の提供は、よい取り組みだと思えます。他の活動についても、市民が興味を持てるよう配信していけると良いと思えます。 紙面の情報誌とともにオンラインで見られるものがあるといいです。 												

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

- ④ 運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。
- ④ 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	気軽に楽しめるウォーキングの普及（施策25）	担当課 文化・スポーツ課																																																																																																																																																																																																							
内 容	健康づくりの一環として、健康生きがい推進課が推進するスマートフォン用アプリ「a1k0」の普及を目的としてバーチャルウォーキング大会を開催します。あわせて、効果的なウォーキングの情報提供やノルディックウォークの講習会を行うことにより、スポーツ活動の促進を目指します。																																																																																																																																																																																																								
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングアプリ「a1k0」を活用して、日ごろの歩数に応じて参加者を4段階にランク分けし、ランク別に設けられたコースの踏破を目指すバーチャルウォーキング大会を開催しました。 ・ウォーキングアプリ「a1k0」では、バーチャルウォーキング大会の他にも、様々なチャレンジの開催や、商品券に交換できるポイント付与なども実施しており、アプリのダウンロード者数（大会開催時点）は令和元年度の9,284人から、令和2年度は12,876人に増加しました。バーチャルウォーキング大会への参加者数も約600人増加しました。 <table border="1" data-bbox="475 1227 1409 1630"> <tr> <td>開催日</td> <td>11月1日（日）～11月30日（月）</td> </tr> <tr> <td>コース</td> <td> ①ダイヤモンド・ゴールド 約284km（1日当たり 約12,800歩） ②シルバー 約173km（1日当たり 約7,800歩） ③ブロンズ 約121km（1日当たり 約5,500歩） ④ノーマル 約70km（1日当たり 約3,100歩） </td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>2,338人（R元年度：1,710人）</td> </tr> <tr> <td>達成者数</td> <td>1,570人（R元年度：1,135人）</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="475 1646 1409 1993"> <caption>年代別・男女別集計（参加者割合）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">コース</th> <th colspan="3">ゴールド</th> <th colspan="3">シルバー</th> <th colspan="3">ブロンズ</th> <th colspan="3">ノーマル</th> <th colspan="3">総計</th> </tr> <tr> <th>男</th> <th>女</th> <th>－</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19歳以下</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.2</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>0.1</td> <td>0.1</td> <td>0.0</td> <td>0.7</td> <td>0.8</td> <td>0.0</td> <td>0.3</td> <td>0.3</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>20歳代</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> <td>0.0</td> <td>0.9</td> <td>1.6</td> <td>0.0</td> <td>3.4</td> <td>4.6</td> <td>0.2</td> <td>3.1</td> <td>5.4</td> <td>0.5</td> <td>2.5</td> <td>3.8</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>30歳代</td> <td>5.3</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>7.9</td> <td>3.4</td> <td>0.0</td> <td>4.5</td> <td>4.6</td> <td>1.1</td> <td>6.0</td> <td>8.4</td> <td>1.0</td> <td>5.7</td> <td>5.0</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>40歳代</td> <td>9.4</td> <td>5.3</td> <td>1.2</td> <td>11.8</td> <td>8.6</td> <td>0.7</td> <td>10.7</td> <td>10.7</td> <td>2.2</td> <td>9.1</td> <td>15.4</td> <td>2.7</td> <td>10.2</td> <td>11.0</td> <td>1.9</td> </tr> <tr> <td>50歳代</td> <td>18.0</td> <td>11.2</td> <td>0.9</td> <td>12.7</td> <td>9.3</td> <td>1.8</td> <td>10.4</td> <td>11.9</td> <td>1.0</td> <td>8.3</td> <td>12.0</td> <td>2.0</td> <td>11.2</td> <td>11.3</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>60歳代</td> <td>15.6</td> <td>7.7</td> <td>2.4</td> <td>12.0</td> <td>9.5</td> <td>1.4</td> <td>7.3</td> <td>7.2</td> <td>1.6</td> <td>3.9</td> <td>5.7</td> <td>1.0</td> <td>8.3</td> <td>7.2</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>9.7</td> <td>5.6</td> <td>0.9</td> <td>7.0</td> <td>5.2</td> <td>1.1</td> <td>4.3</td> <td>6.3</td> <td>0.5</td> <td>2.4</td> <td>3.3</td> <td>0.5</td> <td>5.0</td> <td>5.0</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>非公開</td> <td>1.8</td> <td>0.9</td> <td>0.6</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>0.9</td> <td>1.5</td> <td>4.4</td> <td>1.3</td> <td>1.1</td> <td>4.9</td> <td>1.8</td> <td>1.5</td> <td>3.6</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>61.1</td> <td>32.4</td> <td>6.5</td> <td>54.5</td> <td>39.6</td> <td>5.9</td> <td>42.1</td> <td>49.9</td> <td>7.9</td> <td>34.6</td> <td>55.8</td> <td>9.5</td> <td>44.9</td> <td>47.3</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td colspan="3">339人</td> <td colspan="3">442人</td> <td colspan="3">821人</td> <td colspan="3">736人</td> <td colspan="3">2338人</td> </tr> </tbody> </table> <p>●割合の算出方法（各ランク）：（ランクごとの男性（女性）の参加者/コース全体の参加者）*100 ●「－」は性別で「選択しない」を選んだ方</p>		開催日	11月1日（日）～11月30日（月）	コース	①ダイヤモンド・ゴールド 約284km（1日当たり 約12,800歩） ②シルバー 約173km（1日当たり 約7,800歩） ③ブロンズ 約121km（1日当たり 約5,500歩） ④ノーマル 約70km（1日当たり 約3,100歩）	参加者数	2,338人（R元年度：1,710人）	達成者数	1,570人（R元年度：1,135人）	コース	ゴールド			シルバー			ブロンズ			ノーマル			総計			男	女	－	男	女	－	男	女	－	男	女	－	男	女	－	19歳以下	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.3	0.3	0.0	20歳代	1.2	1.2	0.0	0.9	1.6	0.0	3.4	4.6	0.2	3.1	5.4	0.5	2.5	3.8	0.3	30歳代	5.3	0.6	0.6	7.9	3.4	0.0	4.5	4.6	1.1	6.0	8.4	1.0	5.7	5.0	0.8	40歳代	9.4	5.3	1.2	11.8	8.6	0.7	10.7	10.7	2.2	9.1	15.4	2.7	10.2	11.0	1.9	50歳代	18.0	11.2	0.9	12.7	9.3	1.8	10.4	11.9	1.0	8.3	12.0	2.0	11.2	11.3	1.5	60歳代	15.6	7.7	2.4	12.0	9.5	1.4	7.3	7.2	1.6	3.9	5.7	1.0	8.3	7.2	1.5	70歳以上	9.7	5.6	0.9	7.0	5.2	1.1	4.3	6.3	0.5	2.4	3.3	0.5	5.0	5.0	0.7	非公開	1.8	0.9	0.6	2.0	2.0	0.9	1.5	4.4	1.3	1.1	4.9	1.8	1.5	3.6	1.3	合計	61.1	32.4	6.5	54.5	39.6	5.9	42.1	49.9	7.9	34.6	55.8	9.5	44.9	47.3	7.8	参加人数	339人			442人			821人			736人			2338人		
開催日	11月1日（日）～11月30日（月）																																																																																																																																																																																																								
コース	①ダイヤモンド・ゴールド 約284km（1日当たり 約12,800歩） ②シルバー 約173km（1日当たり 約7,800歩） ③ブロンズ 約121km（1日当たり 約5,500歩） ④ノーマル 約70km（1日当たり 約3,100歩）																																																																																																																																																																																																								
参加者数	2,338人（R元年度：1,710人）																																																																																																																																																																																																								
達成者数	1,570人（R元年度：1,135人）																																																																																																																																																																																																								
コース	ゴールド			シルバー			ブロンズ			ノーマル			総計																																																																																																																																																																																												
	男	女	－	男	女	－	男	女	－	男	女	－	男	女	－																																																																																																																																																																																										
19歳以下	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.8	0.0	0.3	0.3	0.0																																																																																																																																																																																										
20歳代	1.2	1.2	0.0	0.9	1.6	0.0	3.4	4.6	0.2	3.1	5.4	0.5	2.5	3.8	0.3																																																																																																																																																																																										
30歳代	5.3	0.6	0.6	7.9	3.4	0.0	4.5	4.6	1.1	6.0	8.4	1.0	5.7	5.0	0.8																																																																																																																																																																																										
40歳代	9.4	5.3	1.2	11.8	8.6	0.7	10.7	10.7	2.2	9.1	15.4	2.7	10.2	11.0	1.9																																																																																																																																																																																										
50歳代	18.0	11.2	0.9	12.7	9.3	1.8	10.4	11.9	1.0	8.3	12.0	2.0	11.2	11.3	1.5																																																																																																																																																																																										
60歳代	15.6	7.7	2.4	12.0	9.5	1.4	7.3	7.2	1.6	3.9	5.7	1.0	8.3	7.2	1.5																																																																																																																																																																																										
70歳以上	9.7	5.6	0.9	7.0	5.2	1.1	4.3	6.3	0.5	2.4	3.3	0.5	5.0	5.0	0.7																																																																																																																																																																																										
非公開	1.8	0.9	0.6	2.0	2.0	0.9	1.5	4.4	1.3	1.1	4.9	1.8	1.5	3.6	1.3																																																																																																																																																																																										
合計	61.1	32.4	6.5	54.5	39.6	5.9	42.1	49.9	7.9	34.6	55.8	9.5	44.9	47.3	7.8																																																																																																																																																																																										
参加人数	339人			442人			821人			736人			2338人																																																																																																																																																																																												

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、10月に開催を予定していたノルディックウォーク講習会は中止となりました。 ※6/6 新型コロナウイルス感染症拡大により中止 ※10/10 台風接近により中止 【ノルディックウォーク講習会】 <table border="1" data-bbox="488 488 1409 636"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">R2年度</th> <th colspan="2">R元年度</th> </tr> <tr> <th>6/6（土）中止</th> <th>10/10（土）中止</th> <th>6/1（土）</th> <th>10/5（土）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加人数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>21人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防のため、外出の機会が減少したことによる運動不足などの健康二次被害を防ぐため、市ホームページや「a l k o」内のお知らせページにおいて、適度な運動やウォーキングの働きかけを行いました。 	項目	R2年度		R元年度		6/6（土）中止	10/10（土）中止	6/1（土）	10/5（土）	参加人数	—	—	21人	18人
項目	R2年度		R元年度												
	6/6（土）中止	10/10（土）中止	6/1（土）	10/5（土）											
参加人数	—	—	21人	18人											
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の市民意向調査（令和2年）では、市民の週1回以上のスポーツ実施率は全体平均で52.2%という結果となっています。年代別でみると、30歳代の実施率は40.4%、40歳代の実施率は39.0%と平均を下回っています。バーチャルウォーキング大会の参加者は、40歳代から50歳代の割合が高くなっていることから、今後は30歳代にも大会への参加を促すよう工夫する必要があります。 ・10月に予定していたノルディックウォーク講習会は38名と多くの応募がありましたが、台風接近により中止となりました。参加意欲のある方に機会を提供できるよう、予備日を設定するなどの対策が必要です。 														
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により各種イベントの中止や、テレワークの推奨等により、運動不足につながりやすい環境となっています。健康二次被害を防ぐため、コロナ禍においても取り組みやすいウォーキングをますます働きかける必要があります。 ・「a l k o」を活用したウォーキング大会を引き続き開催するとともに、適度な運動を促すよう情報発信に取り組みます。 ・ノルディックウォークは、ポールを使った全身運動に加え、腰やひざへの負担も軽減できることから、バーチャルウォーキング大会参加者や他の事業への参加者に対し、一層の周知・普及に取り組む必要があります。 														
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者・達成者が大幅に増えており、今後の拡大も期待できます。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・「a l k o」が、市民に広がり、参加者・達成者数ともに増加しているのはよい傾向です。今後も継続し、市民の健康増進に役立つ取組みであってほしいと思います。 														

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none">・市民の健康増進やスポーツ推進の観点から考えると、「健康生きがい支え合い推進部」を中心とした取組みには大いに期待しています。縦割り行政を打破し、「こども未来部」等との連携を視野に入れた企画は、今後の市民の健康増進やスポーツ環境の充実に向けて大いに期待出来ると思っています。また、様々なネットワーク環境を生かした取組みやスポーツ協会のホームページの充実など、市民のニーズに添った感覚での企画もよいと思います。・台風時期と開催が重なると中止になる時もあります。参加しやすいように春季や冬季末などにも計画があるといいです。・十分な感染対策を実施すれば開催できると思います。
--	---

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	スポーツ教室の開催（施策25）				担当課																	
					文化・スポーツ課																	
内 容	(公財)小牧市スポーツ協会と連携し、加盟競技団体等が実施する市民スポーツ教室の開催を拡充して実施します。																					
達 成 状 況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教室名</th> <th>対象</th> <th>実施日・時間</th> <th>参加人数</th> <th>延べ参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">幼児サッカー教室 (市サッカー協会)</td> <td>年少・中クラス</td> <td>毎週木曜日 16:15~17:15</td> <td rowspan="2">14名</td> <td rowspan="2">260名</td> </tr> <tr> <td>年長クラス</td> <td>毎週木曜日 17:30~18:30</td> </tr> <tr> <td>ママ体操教室 (市体操連盟)</td> <td>65歳未満の女性</td> <td>毎週水曜日 10:00~11:00</td> <td>7名</td> <td>124名</td> </tr> </tbody> </table>					教室名	対象	実施日・時間	参加人数	延べ参加人数	幼児サッカー教室 (市サッカー協会)	年少・中クラス	毎週木曜日 16:15~17:15	14名	260名	年長クラス	毎週木曜日 17:30~18:30	ママ体操教室 (市体操連盟)	65歳未満の女性	毎週水曜日 10:00~11:00	7名	124名
	教室名	対象	実施日・時間	参加人数	延べ参加人数																	
	幼児サッカー教室 (市サッカー協会)	年少・中クラス	毎週木曜日 16:15~17:15	14名	260名																	
		年長クラス	毎週木曜日 17:30~18:30																			
ママ体操教室 (市体操連盟)	65歳未満の女性	毎週水曜日 10:00~11:00	7名	124名																		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、ホームページや機関誌等でスポーツ教室を紹介し、対象の保護者への周知を拡大する必要があります。 ・幼児期のみで終わらせることなく、ジュニア育成活動や加盟団体のスポーツ教室などにつなげていく工夫が必要です。 																					
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の中核施設である多世代交流プラザで、その対象となる子育て世代及び幼児・児童を対象としたスポーツ教室を開催することで、利用者の利便性の向上など、スポーツをする機会が少ない世代への機会を提供することで、市民総スポーツ化への一躍を担います。 ・多世代交流プラザと協力体制を整備することで、ターゲット層を絞りニーズに沿ったスポーツ活動環境の提供を図ります。 ・幼児・児童が、多世代交流プラザにおいて多様なスポーツと出会う機会を提供していきます。 																					
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・機会の増加が求められます。 ・スポーツの種類を幅を広げ、より多くの幼児スポーツ教室が開かれることを期待します。 ・今後も教室の充実を期待します。 																					

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	親子スポーツ教室の開催（施策26）	担当課																																															
		文化・スポーツ課 多世代交流プラザ																																															
内 容	親と子がふれあってスポーツの楽しさに触れることなどにより、親子のスポーツを通じた健康づくりの機会を提供します。																																																
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・よちよち歩きができる子から4歳未満までとその保護者を対象に、親と子または友達同士で体を動かす楽しさを伝えるため、親子ふれあい体操教室を開催しました。 ・ホームページのスポーツのページや子育てサイトへ掲載した他、チラシを作成し、保健センターに設置しました。チラシには、スポーツ協会が開催する親子体操の紹介も掲載し、周知に努めました。 <table border="1" data-bbox="491 779 1390 1043"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>回数</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>受講者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第Ⅰ期親子ふれあい体操教室</td> <td>8回</td> <td>20組</td> <td>20組</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第Ⅱ期親子ふれあい体操教室</td> <td>8回</td> <td>20組</td> <td>40組</td> <td>20組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅲ期親子ふれあい体操教室</td> <td>8回</td> <td>20組</td> <td>41組</td> <td>20組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅳ期親子ふれあい体操教室</td> <td>8回</td> <td>20組</td> <td>45組</td> <td>17組</td> </tr> </tbody> </table> <p>※第Ⅰ期 新型コロナウイルス感染症拡大により中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2歳から3歳までの未就園児とその保護者を対象に、基礎体力の向上、リズム感、協調性、集中力を身に付けさせるとともに、楽しみながら親子のふれあいとコミュニケーションを図るため、親子リズム教室を開催しました。 <table border="1" data-bbox="491 1330 1390 1435"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>回数</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>受講者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>親子リズム教室</td> <td>6回</td> <td>20組</td> <td>17組</td> <td>17組</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳から6歳までの未就学児とその保護者を対象に、親子がリズムに乗りながら歌を歌い、身近な道具を使って親や友達と触れ合いながら体操することにより、体を動かすことの楽しさを感じてもらうため、親子わくわく体操教室を開催しました。 <table border="1" data-bbox="491 1675 1390 1780"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>回数</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>受講者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>親子わくわく体操教室</td> <td>6回</td> <td>20組</td> <td>4組</td> <td>4組</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳から小学1年生とその保護者を対象に、子どもがスポーツを始める機会づくりと、親子のふれあいを目的として、親子テニス教室を開催しました。 				講座名	回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	20組	中止	第Ⅱ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	40組	20組	第Ⅲ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	41組	20組	第Ⅳ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	45組	17組	講座名	回数	定員	応募者	受講者	親子リズム教室	6回	20組	17組	17組	講座名	回数	定員	応募者	受講者	親子わくわく体操教室	6回	20組	4組	4組
講座名	回数	定員	応募者	受講者																																													
第Ⅰ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	20組	中止																																													
第Ⅱ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	40組	20組																																													
第Ⅲ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	41組	20組																																													
第Ⅳ期親子ふれあい体操教室	8回	20組	45組	17組																																													
講座名	回数	定員	応募者	受講者																																													
親子リズム教室	6回	20組	17組	17組																																													
講座名	回数	定員	応募者	受講者																																													
親子わくわく体操教室	6回	20組	4組	4組																																													

点検評価シート（令和2年度実績）

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>回数</th> <th>定員</th> <th>応募者</th> <th>受講者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第Ⅰ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>17組</td> <td>10組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅱ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>10組</td> <td>10組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅲ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>27組</td> <td>10組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅳ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>13組</td> <td>10組</td> </tr> <tr> <td>第Ⅴ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>27組</td> <td>中止</td> </tr> <tr> <td>第Ⅵ期親子テニス教室</td> <td>6回</td> <td>10組</td> <td>10組</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>					講座名	回数	定員	応募者	受講者	第Ⅰ期親子テニス教室	6回	10組	17組	10組	第Ⅱ期親子テニス教室	6回	10組	10組	10組	第Ⅲ期親子テニス教室	6回	10組	27組	10組	第Ⅳ期親子テニス教室	6回	10組	13組	10組	第Ⅴ期親子テニス教室	6回	10組	27組	中止	第Ⅵ期親子テニス教室	6回	10組	10組	中止
	講座名	回数	定員	応募者	受講者																																			
	第Ⅰ期親子テニス教室	6回	10組	17組	10組																																			
	第Ⅱ期親子テニス教室	6回	10組	10組	10組																																			
	第Ⅲ期親子テニス教室	6回	10組	27組	10組																																			
	第Ⅳ期親子テニス教室	6回	10組	13組	10組																																			
	第Ⅴ期親子テニス教室	6回	10組	27組	中止																																			
	第Ⅵ期親子テニス教室	6回	10組	10組	中止																																			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、親子ふれあい体操教室の第Ⅰ期は中止となりました。第Ⅱ期からは、参加者の体温チェック、手指消毒、換気等の対策を徹底し、定員を半数として開催しました。引き続き、感染対策を徹底しながら教室を実施していく必要があります。更に、応募が定員を超過しており、親子で参加できる他の教室やこども未来館等子育て施設の紹介を行っていく必要があります。 ・親子リズム教室、親子わくわく体操教室は8月に開講しましたが、新型コロナウイルス感染症の懸念のため、応募者数が減少しました。 ・親子テニス教室は、保護者の対象を親から祖父母まで拡大した結果、開講数を令和元年度の3期から6期に増やしたにも関わらず、定員を上回る応募がありました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、第Ⅴ・Ⅵ期は中止となりましたが、引き続き教室の活性化に努めていく必要があります。 																																							
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・外出自粛により家にいる時間が多くなる中、広い体育館で走り回ることでできる親子ふれあい体操教室は、アンケートの結果、大変好評でした。1期につき8回の開催としましたが、環境や動きに慣れ楽しく参加できるようになってきた頃に教室が終了するため、令和3年度は1期につき10回の開催とし、楽しく体を動かす中で、幼少期において大切な体の使い方や体力を獲得し、心身の健全な育成に努めます。 																																							
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で中止とせざるをえない回もあったが、感染対策をしながら開催されたことは高く評価できます。今後も、取組みの充実が期待できます。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・コロナ禍で開催できなかった教室もありましたが、ふれあい体操教室は定員を上回る応募があり、宣伝効果がよく効いていたと思います。若い親や子どもにとって、体を動かし、親子の触れ合いをつくるよい機会になったと思います。ぜひ継続してください。 																																							

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>テニス教室では、対象を祖父母にまで拡大という工夫がよかったです。現状把握をしっかりと、開催回数を増やす等の計画見直しを着実にしていく真剣な取組みがとてもよいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 幼児体操教室のようなクラスが身近にあると、幼児を家で育てている女性にとって有難いです。・ 親子でスポーツが楽しめることは、とても良いと思います。今後もぜひ実施していただきたいと思います。
--	--

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業の実施（施策27）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	東京2020 オリンピック・パラリンピックの開催に向けて競技スポーツに対する市民の関心を高めるため、関連した事業を開催します。	
達 成 状 況	・オリンピック・パラリンピックの開催延期に伴い、関連事業については令和3年度に延期となりました。	
課 題	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、関連事業等の開催方法を見直す必要があります。	
今後の取組の方向性	・あらためて、オリンピック・パラリンピックの機運を高めるため、新しい生活様式を踏まえた上で、事業の効果的な実施方法を検討します。 ・パラリンピック採火式は、コンセプトである「Share Your Light/あなたはきっと、誰かの光だ。」に基づいて、この大会を契機に共生社会を実現し、人と人、人と社会との「新しいパートナーシップ」を考えるきっかけとします。8月15日（日）に実施される愛知県パラリンピック聖火フェスティバル採火式に、小牧市で採火した炎「(仮称) こまき支え合いの聖火」を届けます。	
評価委員の意見等	・世論を踏まえて適切にかつ慎重に諸判断を行う必要があると思います。 ・一時的な事業ですが、小牧市民の記憶に残るようなパフォーマンスや市民への動画配信などができるといいです。	

点検評価シート（令和２年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	スポーツ施設の適切な管理・運営（施策２８）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	スポーツ施設の適切な管理・運営の維持に向けて、指定管理の先進的事例等の研究を行います。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者制度を導入している先進的事例の情報を収集するため、全国のスポーツ施設を管理運営している自治体 10 か所にアンケート調査を依頼しました。 ・アンケートと同時に、次回の指定管理募集の参考とするため、募集要項、仕様書、基本協定書、選定スケジュールなど、管理・運営の基本となる資料の提供を依頼し、情報収集に努めました。 ・定期的なモニタリングを行うことは、施設が適切に管理・運営されていることを確認するために非常に重要なことであるため、施設担当が確認すべき内容が分かるよう、モニタリングに係る具体的な執行スケジュール、チェックする事項や基準などを作成しました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市のスポーツ施設では、指定管理者から市へ使用料をすべて納入する代行制度を導入していますが、この制度には、指定管理者が経営努力により、入場者数を増やした場合でも指定管理者の収入は増えず、費用を削減した場合はサービスの低下につながるというデメリットがあります。これに対し、使用料をすべて指定管理者の収入とする利用料金制度には、指定管理者のノウハウを活かし、サービス向上の経営努力を発揮しやすくなるというメリットがあります。今後の指定管理において、代行制度と利用料金制度それぞれのメリット・デメリットを踏まえながら、各施設でどちらの制度を導入すべきか検討する必要があります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集をした他市のスポーツ施設における仕様書等の研究を引き続き行い、小牧市の各施設において、市民の利便性の向上を図るとともに、適切な管理・運営が行えるよう、仕様書等の見直しをすすめます。 	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・両制度のバランスを見極め、折衷案など第３の選択肢も考慮し、慎重に判断することが求められます。 ・利用料金制度は、市場原理の導入によりサービスの向上も考えられますが、サービスが一定しなかったり、使用料の値上げにつながるといったデメリットも考えられます。 ・利用者の少ない施設については、使用料の値下げやアクセスの見直しなどを含め、利用しやすい環境づくりの検討が必要だと思います。 	

基本目標7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

- ④ 文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。
- ④ 市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	身近で良質な鑑賞機会の充実（施策29）	担当課 文化・スポーツ課												
内 容	文化財団と連携し、福祉コンサートやこまぶんフェスタなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。													
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある方やその家族、介護施設の職員の方など、普段コンサートに足を運ぶことが難しい方でも気兼ねなく、安心して楽しめるコンサートとして「Love&Live バリアフリーコンサート」を開催しました。 ・0歳のお子様から参加できる「よちよち親子のはじめてコンサート」や、様々なジャンルの音楽を集めた「ライブハウス“KOMABUN”」など、音楽でつながるフェスティバルとして「こまぶんフェスタ」を開催しました。 <p>【Love&Live バリアフリーコンサート】</p> <table border="1" data-bbox="491 1149 967 1299"> <tr> <td>公演日</td> <td>10月16日（金）</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>市公民館</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>32人</td> </tr> </table> <p>【こまぶんフェスタ】</p> <table border="1" data-bbox="491 1393 967 1543"> <tr> <td>開催日</td> <td>8月23日（日）</td> </tr> <tr> <td>会場</td> <td>市公民館・市民会館</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>延べ666人</td> </tr> </table>		公演日	10月16日（金）	会場	市公民館	来場者数	32人	開催日	8月23日（日）	会場	市公民館・市民会館	来場者数	延べ666人
公演日	10月16日（金）													
会場	市公民館													
来場者数	32人													
開催日	8月23日（日）													
会場	市公民館・市民会館													
来場者数	延べ666人													
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化活動に参加したくても様々な事情により参加できない方にも、文化に親しんでもらう環境を整備する必要があります。 ・様々なアプローチから文化・芸術に親しむきっかけを提供していく必要があります。 													
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉や教育など多様な分野と連携し、すべての市民に文化・芸術の鑑賞機会を届ける取組みを進めます。 ・こまき市民文化財団と連携し、こまぶんフェスタが、文化や芸術をツールとして幅広い世代が交流し、つながる場となるよう努めます。 													

点検評価シート（令和2年度実績）

評価委員 の意見等	<ul style="list-style-type: none">・引き続きの取組みを期待します。・こまぶんフェスタに参加しました。コロナ感染対策をとり運営されており、安心して参加することができました。また、初めて聴く楽器の演奏や民族音楽など、「つながる」のテーマにふさわしいコンサートでした。演奏の合間にフロアで演奏されたチンドン「べんてんや」も楽しいパフォーマンスで、会場を盛り立てていました。随所に工夫が見られ、企画運営された方々のご尽力で大成功でした。コロナ禍で参加人数が制限されたことは残念でした。コロナが収まったときには、多くの市民が参加できるフェスタを期待します。・今後とも活動を継続して行って、誰もが文化に触れる機会をもてるといいです。
--------------	---

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	中部フィルハーモニー交響楽団の活動支援 （施策31）	担当課 文化・スポーツ課																
内 容	中部フィルハーモニー交響楽団の活動を支援し、活動基盤の充実を図るとともに、こまき市民文化財団と連携して、地域でのコンサート等を実施し、認知度の向上を図ります。																	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> こまき市民文化財団と演奏会に対する支援を行うとともに、市内小中学校への「オーケストラ鑑賞事業」、市内吹奏楽部への「音楽指導事業」及び地域での「ふれあいコンサート」などの事業を連携して実施しました。 <p>【共催公演】</p> <table border="1" data-bbox="491 768 1313 965"> <thead> <tr> <th>公演名</th> <th>公演日</th> <th>会場</th> <th>入場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第71回定期演奏会</td> <td>9月20日(日)</td> <td>市民会館</td> <td>318人</td> </tr> <tr> <td>小牧特別演奏会</td> <td>12月5日(土)</td> <td>市民会館</td> <td>400人</td> </tr> <tr> <td>第74回定期演奏会</td> <td>2月6日(土)</td> <td>市民会館</td> <td>261人</td> </tr> </tbody> </table>		公演名	公演日	会場	入場者数	第71回定期演奏会	9月20日(日)	市民会館	318人	小牧特別演奏会	12月5日(土)	市民会館	400人	第74回定期演奏会	2月6日(土)	市民会館	261人
公演名	公演日	会場	入場者数															
第71回定期演奏会	9月20日(日)	市民会館	318人															
小牧特別演奏会	12月5日(土)	市民会館	400人															
第74回定期演奏会	2月6日(土)	市民会館	261人															
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 中部フィルハーモニー交響楽団の活動基盤の充実を図る必要があります。 音楽への関心を高めていくため、中部フィルハーモニー交響楽団の活動を市民に広く知ってもらう必要があります。 																	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 中部フィルハーモニー交響楽団の「地域に根差したトップクラスのオーケストラ」を目指した取組みを、こまき市民文化財団と連携し、支援します。 中部フィルハーモニー交響楽団による子どもたちへの演奏鑑賞事業などを実施し、子どもたちの音楽文化への関心を高めるとともに、地域でのコンサートなどを開催し、中部フィルハーモニー交響楽団への認知度の向上を図ります。 																	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちへの鑑賞事業を充実させることが期待されます。 引き続きの取組みを期待します。 コロナ感染のため、演奏会が中止・延期になり、経営がさらに厳しいのではないかと察しています。中央図書館とか小牧山とか開放的な空間を活用して数人編成での演奏をし、身近に音楽を聴いてもらい、中部フィルハーモニー交響楽団の存在をもっとPRしていったらどうかなと思います。 実際に見学鑑賞できる人の数が限られます。Zoomなどを使った方法でより幅広い人々に鑑賞機会がもてるようになると、中部フィルの活動を広く知ってもらえるのでは。 音楽への関心を多くの方に広めていくためにも、今後もぜひ続け 																	

点検評価シート（令和2年度実績）

	ていただきたいと思います。
--	---------------

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本 計画の施策番号）	文化財団の活動支援（施策32）	担当課																											
		文化・スポーツ課																											
内 容	文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画や、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。																												
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> こまき市民文化財団に対して、人件費や事務費、事業費の補助及び文化事業の委託を行いました。 <p>【事業実績（一部）】</p> <p>学校へのアウトリーチ事業</p> <table border="1" data-bbox="466 721 1409 1012"> <thead> <tr> <th>内容 ()内はアーティスト名</th> <th>分野</th> <th>訪問校</th> <th>対象学年</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>音楽アウトリーチ (堀江 裕介 他3名)</td> <td>音楽</td> <td>桃陵中学校</td> <td>全学年</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>落語アウトリーチ (桂 宮治)</td> <td>落語</td> <td>小牧南小学校</td> <td>5年生 6年生</td> <td>282人</td> </tr> </tbody> </table> <p>主な公演事業</p> <table border="1" data-bbox="472 1111 1382 1402"> <thead> <tr> <th>公演名</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駒来落語会 春風亭昇太独演会</td> <td>455人</td> </tr> <tr> <td>栗コーダーカルテット ほのぼのコンサート</td> <td>218人</td> </tr> <tr> <td>平田オリザ特別講演会 「なぜ、今、地域に芸術が必要なのか」</td> <td>96人</td> </tr> <tr> <td>劇団青年団 子ども参加型演劇「サンタクロース会議」</td> <td>144人</td> </tr> </tbody> </table>				内容 ()内はアーティスト名	分野	訪問校	対象学年	人数	音楽アウトリーチ (堀江 裕介 他3名)	音楽	桃陵中学校	全学年	40人	落語アウトリーチ (桂 宮治)	落語	小牧南小学校	5年生 6年生	282人	公演名	来場者数	駒来落語会 春風亭昇太独演会	455人	栗コーダーカルテット ほのぼのコンサート	218人	平田オリザ特別講演会 「なぜ、今、地域に芸術が必要なのか」	96人	劇団青年団 子ども参加型演劇「サンタクロース会議」	144人
内容 ()内はアーティスト名	分野	訪問校	対象学年	人数																									
音楽アウトリーチ (堀江 裕介 他3名)	音楽	桃陵中学校	全学年	40人																									
落語アウトリーチ (桂 宮治)	落語	小牧南小学校	5年生 6年生	282人																									
公演名	来場者数																												
駒来落語会 春風亭昇太独演会	455人																												
栗コーダーカルテット ほのぼのコンサート	218人																												
平田オリザ特別講演会 「なぜ、今、地域に芸術が必要なのか」	96人																												
劇団青年団 子ども参加型演劇「サンタクロース会議」	144人																												
課 題	<ul style="list-style-type: none"> すべての市民に文化に親しんでもらう環境づくりを行うとともに、市民や文化団体等が文化に関わる情報や団体の取組みについて気軽に相談できる体制づくりが必要です。 市民が小牧市の文化に愛着や誇りを持ち、文化に親しみさらに活動の輪を広げていくきっかけづくりを進めていく必要があります。 																												
今後の取組 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞や体験を通して気軽に芸術・文化に触れてもらう機会を充実させます。 市民の自主的な文化活動や、地域活動等につながる取組みに連携し、支援します。 																												
評 価 委 員 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> 学校のアウトリーチは、児童・生徒が鑑賞するだけでなく、活動を発表したり、指導をうけたり、プロとの交流ができるとよいです。 																												

点検評価シート（令和2年度実績）

	<ul style="list-style-type: none">・体験型の事業がより充実し、市民の活動のためのつながりを促進することを期待します。・今後とも、文化財団の支援が継続されるよう願います。
--	--

基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

- ☞ 郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。
- ☞ 市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財の保護（施策33）	担当課 文化財課
内 容	文化財保護審議会において、市内文化財の調査を行い、保護を進めます。また、大草のマメナシ自生地の保存活用計画を策定するなど、文化財の保護活用に努めます。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内文化財調査については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施を見合わせました。 ・大草のマメナシ自生地保存活用計画については、文化財保護審議会（11月18日、1月29日開催）で審議を行い、今年度策定しました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな文化財を見出すため、文化財調査を行い、指定する価値がある物件は、市の文化財に指定し、保護していく必要があります。 ・策定した大草のマメナシ自生地保存活用計画に基づき、自生地の保存等を行っていく必要があります。 ・既存の市指定文化財について、計画的に現状把握を行う必要があります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・調査先（創建の古い寺院等）を選定して文化財調査を実施し、新たな文化財の発掘を行っていきます。 ・策定した大草のマメナシ自生地保存活用計画に基づき、自生地の保存等を行っていきます。 ・市指定文化財の保護に向けて、所有者との連携の強化など指定文化財の現状把握の方法について検討していきます。 	
評 価 委 員 の 意 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・マナメシの保護は、SDGsの観点から教材として小学校・中学校で学んでほしいです。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・今後とも文化財が保存され、次世代へとつながっていくことを望みます。まだ知られていない文化財を発掘していけるシステムを構築する必要があります。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	文化財の案内機能の充実（施策33）	担当課 文化財課
内 容	文化財のPRや活用を進めるため、現地に案内看板を設置するなど、周辺環境の整備を進めます。	
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に市の文化財に指定した木造千手観音菩薩立像、木造地藏菩薩坐像（以上、小松寺所有）、釈迦涅槃図（正眼寺所有）の文化財説明板の新設、今年度に県指定文化財から国指定重要文化財となった木造十一面観音坐像（賢林寺所有）の既設説明板の板面張替え及び絹本着色千手観音菩薩像（小松寺所有）の劣化している既設説明板の板面張替えについて、今年度実施しました。 ・なお、釈迦涅槃図の説明板には、国指定重要文化財の銅造誕生釈迦仏立像、市指定文化財の無縫塔（以上、正眼寺所有）についても記載し、3件を1枚の説明板にまとめました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・既設説明板の維持管理（状況確認、板面清掃）を行い、文化財への来訪者に対して常に情報提供できるようにしておく必要があります。 ・現地の説明板だけでなく、市ホームページやパンフレットによる情報提供を継続していく必要があります。 ・市発行の文化財パンフレット等をPDFデータ化し、紙媒体だけでなくタブレット端末にて見ることができるよう整える必要があります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・既設説明板の維持管理（状況確認・報告、板面清掃等）について、文化財所有者による実施体制を検討します。 ・引き続き、現地の説明板に加えて、市ホームページやパンフレットによる情報提供や内容更新を行っていきます。 ・文化財パンフレット等を市ホームページに掲載していきます。 	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化は有効です。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・説明板を設置して案内する他、学校教育の中で身近な文化財を認知してもらうことも必要かと思えます。学区の文化財という説明板が校内にあっても良いと思われれます。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	古文書・歴史に関する講座等の開催（施策34）			担当課 文化財課																																		
内 容	古文書や歴史に関する講座等を開催します。幅広い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めます。																																					
達成状況	<p>・愛知文教大学に委託を行い、下記のとおり講座及び展示を開催しました。</p> <p>●講座</p> <p>・古文書講座</p> <table border="1" data-bbox="491 685 1406 882"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>開催日</th> <th>講師</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初級</td> <td>11月7日、14日、 21日、28日</td> <td>酒向道夫氏</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>同上</td> <td>藤堂修一氏</td> <td>17名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・文化財巡り（小牧山・間々観音）</p> <table border="1" data-bbox="491 976 1406 1126"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>案内人</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月8日</td> <td>篠田徹氏 ほか 文化財地図作成委員会委員</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・歴史文化基礎講座</p> <table border="1" data-bbox="491 1220 1406 1563"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>演題</th> <th>講師</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月14日</td> <td>織田信長のやきもの施策 ～一通の朱印状をめぐって～</td> <td>赤羽一郎氏</td> <td>112名</td> </tr> <tr> <td>11月28日</td> <td>名所図会に描かれた小牧</td> <td>山本祐子氏</td> <td>132名</td> </tr> <tr> <td>12月5日</td> <td>木曾街道と小牧宿</td> <td>勝亦貴之氏</td> <td>122名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・これらの他に、食講座（夏休み食講座、伝統食講座）、歴史講座、第3回小牧の古文書展関連講座を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。</p> <p>※古文書講座、歴史文化基礎講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受講者数を例年の半分の定員としました。</p> <p>●展示</p> <p>・第3回小牧の古文書展</p>				区分	開催日	講師	受講者数	初級	11月7日、14日、 21日、28日	酒向道夫氏	21名	中級	同上	藤堂修一氏	17名	開催日	案内人	参加者数	11月8日	篠田徹氏 ほか 文化財地図作成委員会委員	25名	開催日	演題	講師	受講者数	11月14日	織田信長のやきもの施策 ～一通の朱印状をめぐって～	赤羽一郎氏	112名	11月28日	名所図会に描かれた小牧	山本祐子氏	132名	12月5日	木曾街道と小牧宿	勝亦貴之氏	122名
区分	開催日	講師	受講者数																																			
初級	11月7日、14日、 21日、28日	酒向道夫氏	21名																																			
中級	同上	藤堂修一氏	17名																																			
開催日	案内人	参加者数																																				
11月8日	篠田徹氏 ほか 文化財地図作成委員会委員	25名																																				
開催日	演題	講師	受講者数																																			
11月14日	織田信長のやきもの施策 ～一通の朱印状をめぐって～	赤羽一郎氏	112名																																			
11月28日	名所図会に描かれた小牧	山本祐子氏	132名																																			
12月5日	木曾街道と小牧宿	勝亦貴之氏	122名																																			

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>「小牧宿のなりたち ～江崎文書を中心に～」 期間 1月9日～1月17日 会場 まなび創造館 ギャラリー2</p>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に古文書・歴史に関心をもってもらえるよう、子ども向けの講座を実施する必要があります。
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に古文書・歴史に関心をもってもらえるよう、子どもが夏休みの自由研究を作成する際に参考となるような講座を実施していきます。
評価委員等の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある小牧のよさを市民が共有する良い機会です。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・中央図書館の小牧の歴史展示を活用し、子どもたちの関心を高める講座を夏休み等に開催する等、文化財課と図書館との連携も考えられるといいのかなと思いました。 ・古文書を誰もがみられるよう、ホームページでの公開や図書館との連携を期待します。

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	主郭地区整備基本計画の推進（施策35）	担当課 小牧山課
内 容	史跡小牧山主郭地区第13次発掘調査を実施します。	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 山頂西側下の曲輪斜面と山頂東側の屋外トイレ跡地周辺で発掘調査を行った結果、築城時の石垣や玉石敷遺構、西側の出入口を確認しました。石垣は山頂から2段目と3段目の石垣が残存し、2段目の石垣では屈曲する部分（出隅）を1箇所確認しました。玉石敷遺構はこれまで確認した中でも最大規模で、当時の城内通路の舗装や庭の一部であった可能性が考えられます。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査や史跡整備については文化庁、有識者等の検討、指導を経て慎重に進める必要があるため、整備を完了し、成果を市民に還元するまでに期間を要します。 事業の実施にあたり、史跡整備の重要性や必要性について市民に周知を図り、理解を得る必要があります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 平成20年度より実施している小牧山主郭地区の発掘調査成果をもとに、来年度より歴史館周辺を5工区に分け、順次史跡整備工事を行います。 令和3年度は、主郭地区第2・3工区の発掘調査を実施するなど引き続き小牧山城の調査・研究を進めます。 市ホームページ、小牧山城史跡情報館における展示及び現地公開等により、発掘調査や史跡整備の成果や今後の予定について、周知に努めます。 	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> 引き続きの取組みを期待します。 主郭地区がはっきりしてくると、より明快に信長の小牧山城が見えて来るのではと期待しています。 	

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	企画展等の開催による小牧山の歴史的価値や魅力の啓発（施策35）	担当課 小牧山課																																
内 容	小牧山の南東の麓にある小牧山城史跡情報館において、最新の発掘調査成果の公表や企画展等を開催することによって、来館者への小牧山の歴史的価値や魅力の啓発に努めます。																																	
達成状況	<p>・指定管理者であるこまき市民文化財団により、歴史講座や企画展を行いました。</p> <p>●れきしるこまき講座</p> <table border="1" data-bbox="491 667 1406 1010"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8月8日</td> <td>あつまれお城好きっず！最強のお城をつくろう！！</td> <td>川崎昭氏</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>9月6日</td> <td>90分後、石垣の見方がかわるお話</td> <td>いなもとかおり氏</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>3月14日</td> <td>小牧・長久手の戦いと長久手の史跡</td> <td>川出康博氏</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table> <p>●企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> 「小牧山城最前線！令和元年度発掘調査速報展」 期間 6月1日～6月30日 入場者数 1,851人 「信長だけじゃない！小牧山をめぐる人々」 期間 9月11日～11月3日 入場者数 9,561人 <p>●企画展記念イベント</p> <table border="1" data-bbox="491 1489 1406 1637"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月12日</td> <td>春風亭昇太師匠と巡る！リアル小牧山散歩♪</td> <td>春風亭昇太氏</td> <td>28名</td> </tr> </tbody> </table> <p>●れきしるこまきオープン1周年記念講座</p> <table border="1" data-bbox="491 1731 1406 1928"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月10日</td> <td>信長の小牧山城 —その歴史的意義を読み解く—</td> <td>千田嘉博氏</td> <td>486名</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	テーマ	講師	受講者数	8月8日	あつまれお城好きっず！最強のお城をつくろう！！	川崎昭氏	11名	9月6日	90分後、石垣の見方がかわるお話	いなもとかおり氏	40名	3月14日	小牧・長久手の戦いと長久手の史跡	川出康博氏	25名	開催日	テーマ	講師	参加者数	10月12日	春風亭昇太師匠と巡る！リアル小牧山散歩♪	春風亭昇太氏	28名	開催日	テーマ	講師	受講者数	1月10日	信長の小牧山城 —その歴史的意義を読み解く—	千田嘉博氏	486名
開催日	テーマ	講師	受講者数																															
8月8日	あつまれお城好きっず！最強のお城をつくろう！！	川崎昭氏	11名																															
9月6日	90分後、石垣の見方がかわるお話	いなもとかおり氏	40名																															
3月14日	小牧・長久手の戦いと長久手の史跡	川出康博氏	25名																															
開催日	テーマ	講師	参加者数																															
10月12日	春風亭昇太師匠と巡る！リアル小牧山散歩♪	春風亭昇太氏	28名																															
開催日	テーマ	講師	受講者数																															
1月10日	信長の小牧山城 —その歴史的意義を読み解く—	千田嘉博氏	486名																															

点検評価シート（令和2年度実績）

	<p>●れきしるこまきワークショップ</p> <table border="1" data-bbox="491 237 1388 434"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 237 683 286">開催日</th> <th data-bbox="683 237 1005 286">内容</th> <th data-bbox="1005 237 1209 286">講師</th> <th data-bbox="1209 237 1388 286">受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 286 683 434">8月2日</td> <td data-bbox="683 286 1005 434">小牧山城の発掘品にふれてみよう！</td> <td data-bbox="1005 286 1209 434">小野友記子 (小牧山課職員)</td> <td data-bbox="1209 286 1388 434">17名(保護者8名)</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	内容	講師	受講者数	8月2日	小牧山城の発掘品にふれてみよう！	小野友記子 (小牧山課職員)	17名(保護者8名)
開催日	内容	講師	受講者数						
8月2日	小牧山城の発掘品にふれてみよう！	小野友記子 (小牧山課職員)	17名(保護者8名)						
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に来場していただけるよう、指定管理者と連携しながら小牧山城の歴史や魅力を発信する方法を検討する必要があります。 ・コロナ禍においても、小牧山城の歴史を広く知っていただくため情報発信をしていく必要があります。 								
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者であるこまき市民文化財団において、企画展やワークショップ等を開催するとともに、小牧市観光協会とも連携して、施設のPRに努めます。 ・ガイダンス施設としての機能を果たすべく、小牧山主郭地区での最新の発掘調査成果の公表や企画展を開催することによって、小牧山城の歴史的価値や魅力を来場者に情報発信します。 ・ツイッター、フェイスブック等を活用することにより、小牧山城に足を運べない方に向けて、オンラインでの情報発信をします。 								
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで制限した中でも、参加者・来場者数を確保しており、関心の高さが分かります。 ・引き続きの取組みを期待します。 ・ホームページに今月のイベント特集コーナーなどを作り、小牧市歴史館等の活動が常に見られるといいです。 								

点検評価シート（令和2年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	歴史ガイドボランティアと連携した展示品・文化財の解説（施策37）	担当課 文化財課 小牧山課
内 容	歴史館や小牧山城史跡情報館において、歴史ガイドボランティアによる展示資料の解説を行います。	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者であるこまき市民文化財団により、歴史ガイドボランティアが展示資料の解説を行う予定でしたが、令和2年3月から5月末まで、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、歴史館および小牧山城史跡情報館を休館したこと、また、6月より通常開館した後も、一度に入館できる人数を30人に制限したことなどから、令和2年度は展示資料の解説等は実施を見送りました。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における歴史ガイドボランティアによる展示資料の解説のあり方について、検討していく必要があります。 代替案として、デジタル機器による音声解説等の手法も考えられますが、機器の購入や音声プログラム等の作成に多額の費用がかかります。 	
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止措置としての休館や、ガイドボランティアの中止期間を利用し、ガイドボランティア体制の見直しやガイドのレベル向上を目指した研修の実施等を行います。 歴史館や小牧山城史跡情報館の指定管理者である、こまき市民文化財団と連携し、コロナ禍における他市町の博物館や資料館での展示資料の解説方法について調査・検討していきます。 展示解説シートの作成等を検討します。 	
評価委員の意見等	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化については、学校教育（社会科・総合的な学習の教材研究）、生涯学習と連携するなどして、多額の費用をかけない方法も考えられます。 地域の人材資源を活用しながら、ガイドボランティアが運用されることを期待します。 コロナ禍でも開館している美術館などあります。バーチャル見学もできるように準備しても良いと思われます。 	